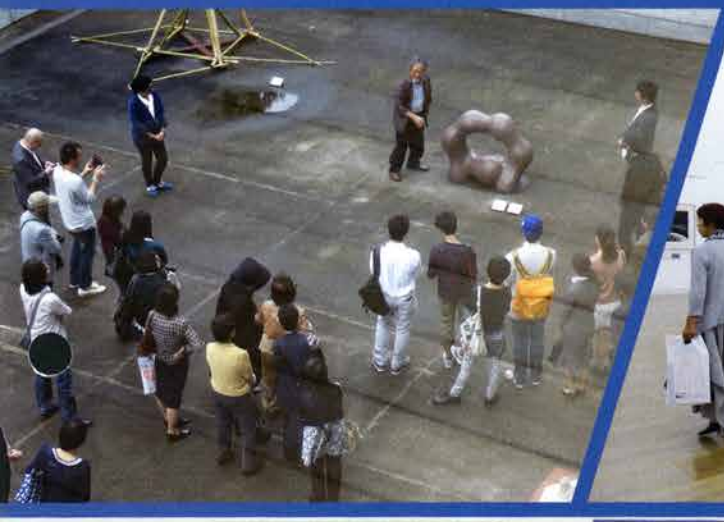
一陽会会報

ICHIYO

MEMBER OF ICHIYOKAI ART ASSOCIATION

No.50
2015.4

― 創立60周年記念展&一陽会会報No.50記念号 ―



視点 21

60周年記念展を終えて

絵画部運営委員　記念事業実行委員長
濵　田　　清

『一陽会は無垢である。そうして若い。量より質を、醜より美を、実を発揮したい。情熱と理想。幻想と詩心。熱心と誠実。鈍重にして執拗。鋭敏にして深刻。いづれにもせよ現代性の認識と新時代的創意創造である。しかるが故に勿論一流一派に固定偏愛することはない。かえって先鋭なる未完成をこそ問題として提案したいところである。一陽会は未だ何等の制約によって拘束されるところがない。前人未踏の新分野を明らかに樹立することこそ一陽会の希望である。』・・・これは二科会脱会後、会を組織してから45日で公募展として開催した第１回一陽会図録の巻頭に掲載されている宣言文です。60年前に一陽会創立にかかわった礎の作家集団の熱気と矜持を改めて感じたいと思います。

さて、創立60周年記念事業の実行委員長を拝命した関係で、貴重な紙面への執筆の機会を与えていただきました。このことに感謝しつつ計画立案、連絡調整など、記念事業に取り組む中で感じた事などを交えて報告いたします。

<60回記念展を迎えるまでの動き>

平成25年４月、会の活性化策を話し合う一陽会刷新プロジェクト会議の中で、一陽会創立に功績のあった鈴木信太郎・野間仁根・高岡徳太郎・植木力の４先生を顕彰する賞の創設、併せて一陽会の活動に尽力された方を対象とする功労賞としてのスカラベ賞の設置が発案・検討されました。これは即に８月の運営委員会で事務所・細川運営委員より提案され、その年の第59回展より実施に移されました。一陽会創立にかかわった大先達の功績再評価とその顕彰は、創立60周年を迎える一陽会事業の第一歩を踏み出したものと認識しています。

次は同様の経緯を踏んでの支部長・グループ長会議の設置・開催であります。これまで一陽会の充実・活性化のための支部や地域活動のありかたを標榜してきましたが、支部長やグループ代表が一堂に会しての会議はありませんでした。これも直ちに第59回一陽展の２日目に開催され、各支部・グループが抱える問題や課題が様々な視点から活発に論議されました。多くの支部が抱える共通の悩み、即対応できる展示や会場の問題、一陽会としての姿勢が問われる課題などが議事録にまとめられて配布された意義は大きく、多くの方から評価の声が届きました。実はこの支部長・グループ長会議の必要性について、30年以上前の一陽会会報の創刊号で佐野儀雄先生（当時委員）が支部連絡会議というかたちで提唱されておりました。組織運営の視点からは欠かせない数少ないボトムアップの場ですので、実現に時間がかかり過ぎた感はありますが、60周年を前に実現できたことを喜びたいと思います。この会議結果を受けての事務所の動きは素早く、支部長会議から日をおかずに60回展の会場設計案の作成に取り掛かっています。その１つは入り口から展示作品が見えるウエルカム・アート風の今記念展の１階の設営として実現しています。「一陽会」という看板だけでは、何の展示か分からないとの指摘への対応です。

<記念事業実行委員会の設置と取り組み>

事務所の細川運営委員から記念展の話があったのは、2014年の１月でした。２月末の運営委員会と委員総会で正式に記念事業実行委員長を拝命。秋の記念展まで実質７ヶ月です。副委員長３名を委員会で快諾をいただき、実行委員10名は電話での依頼にもかかわらず、全員了解をいただきました。実行委員選出でもたつく時間の余裕はありませんでしたので、本当にありがたく感激いたしました。４月19日に東京都美術館で一陽会刷新プロジェクト会議と同時開催で第１回実行委員会を実施。記念事業は事務局原案の６事業【①一陽会小史パネルの作製②記念画集に特集「一陽会とわたし」有料掲載③福島県復興支援の為の60周年チャリティー展の実施④60周年記念グッズ（スカラベペンダント）の作製・販売⑤記念画集への顔写真掲載⑥60周年記念版画部支援友情出品】に実行委員長案【⑦記念講演会とシンポジウム】をプラスして７事業とし、事業概略案と実行委員の分担を提案。⑦案を加えた視点は、一陽会の過去を評価し、現状を正しく認識して、未来への展望を描きたいとの願いからです。７事業とも担当の実行委員を決め責任者を明確にしました。実行委員は正に縁の下を支える仕事で、黙々とパソコン処理や締め切りを過ぎて届かない方への電話作戦など、時間を超越しての献身をいただきました。これは記念事業だけでなく、締め切り時間と格闘して毎年発行される画集の編集作業など、会運営の裏方で滅私の奉仕があって、はじめて一陽展開催が可能となっています。一陽会60年の歴史は、その様な多くの方々の尽力の上に、積み上げられて来たことを心したいと思います。

<記念事業報告>

残念ですが紙面の関係で、全ての事業に触れることが出来ませんのでご容赦ください。今回の記念事業で一番懸念されたのは、**記念画集の特集「一陽会とわたし」の有料掲載**（１万円）でした。しかし、それは全くの杞憂となりました。事業の趣旨をご理解いただき、101名の方から掲載申し込みをいただきました。80名に達すれば嬉しいと事務所と皮算用をしていたのです。掲載協力者の多さに大いに感激すると共に、完成した特集を一読し、内容の充実度にも感動。会の内外から読後感が寄せられ「○○先生の一陽会愛が伝わりますね」等の嬉しい評価もいただきました。

◎表紙写真／棚倉秀雄・宮坂和子会員

また、心苦しくもご協力いただいた掲載料は記念事業財源として有効に活用させていただきました。皆様のご協力に深謝申し上げます。

次に心配したのは、**福島県復興支援を目的とした60周年チャリティー展**です。委員全員の方々にお願いする案はすぐに決まったのですが、各先生方の協力がどれだけ得られるか、そして何よりも販売成果が上げられるのか。他団体のチャリティー販売の様子が予備知識としてあるだけに心配でした。しかし、この心配も全く無用でした。依頼したほぼ全員の先生に快諾いただき、68作品が揃いました。作品は一律２万円で寄付50％、額縁など作家材料費30％、一陽会20％（購入者への送料は会負担）の比率で分配案が決まりました。彫刻作品を含め68点の展示は壮観です。小品とはいえ力の入った素晴らしい作品に、じっくりと時間をかける鑑賞者が目立ちました。また、２万円と格安ということもありほぼ完売で、販売総額の50％の65万円を福島県災害復興基金に寄付することができました。先生方のご協力に深謝申し上げます。

今回の記念事業で最も成果があり、最も残念な思いが残ったのが**記念講演とシンポジウム**です。この事業は立案の段階から難しさを感じました。それは企画内容と人集めです。今回の記念事業①～⑥には、新しい一陽会を展望する視点が無いので、是非ともとの思いで提案した事業です。困難さを払拭する第一は人材で、鑑賞教育のプロフェショナルで研究会等の企画経験の豊かな泉谷淑夫運営委員の存在でした。次に悩んだのが人集めの方策です。ひらめいた方策は、展覧会２日目の支部長・グループ長会議との同時開催です。第59回展で各地域から３名ほどの参加を要請し実績があり、その数を基礎数として考えれば十分な参加者が見込めると踏んだのです。残るは会場の問題、この計画で会場が取れれば全て上首尾であったが、立案時点では会場申込日前で、未定のまま泉谷氏に企画立案を依頼せざるを得なかった。後日、計画日に会場が取れず展覧会５日目の日曜日実施となってしまった。搬入・審査の折に、多くの方から記念講演・シンポジウムの開催日は、地方の会員・出品者を無視しているとの強い叱責を受けました。全くその通りで返す言葉がありませんでした。悪いことは重なるもので講演会当日は台風がらみの荒天で、当然のことながら参加者は極端に少なかった。しかし、その中で涙が出るほど嬉しいことがありました。地方を無視するのかと非難した福井支部が、まとまった人数を送り込んでくれたのです。聞くと授賞式・懇親会出席と記念講演会・シンポジウム出席者に振り分けてくれたのです。その配慮には本当に頭が下がりました。美術評論家・赤津侃氏の「一陽会の過去・現在・未来」の記念講演を受けるかたちで、シンポジウム「新生・一陽会の未来を語る」が、泉谷運営委員の司会で進行され、実のある展開がなされました。若手育成や生涯学習の場の設定など、今後の一陽会の取り組みへの多くの示唆を与える場となりました。特に、パネラーの人選と映像機器を駆使した企画者の手腕に魅せられました。この事業の詳細は今号の特集記事を参照いただきたい。

一陽会60年の歴史を小史年表にまとめる事業を、各実行委員の協力を得て責任者として担当しました。資料としたのは50周年記念誌と画集に掲載されている一陽会小史、そして昭和55年から発刊されている一陽会会報です。これまで編集等の任に当たられた方々に感謝しつつ熟読しました。一陽会についての多くのことを改めて知る機会となり、この任をいただいたことに感謝しております。この事業を担当した実行委員の方々も同様ではないかと思います。二科脱退から公募による第１回展開催までの一陽会創立時のドラマ。そして、その後の組織改変の流れ、特に、委員制の導入（1974）、常任委員の導入（1988）、運営委員の導入（2005）、代表制の改廃など、組織・機能と会運営模索の歴史は大きな要素です。先達の会運営の腐心の跡を強く感じました。私たちも常に課題に対応し、いっそう談論風発の気風を育み、誇りと意欲を感じることができる一陽会との思いを強くしました。入館者の方々から一陽会小史パネルの縮小印刷物は無いのかと尋ねられました。クラシックな色調で素晴らしい仕上がりとなりました。今後毎年掲示されるとのことで嬉しく思います。レイアウトを担当した杉山司運営委員の尽力に感謝いたします。

創立会員14名でスタートした一陽会、今回の60回記念展を数値でまとめると絵画・版画・彫刻を合わせての展示作品総数は、チャリティー作品を除き538点、観客動員数19,260人。現在の会構成は３部門合わせて委員・会員259名、会友149名で構成員数は408名です。大きな陣容となりました。皆さんは創立60回記念展、そして一陽会をどの様に捉え、どう評価しているでしょうか。60回展は大きな節目です。一人ひとりが表現者として自分の立ち位地を確認し、方向性を含め自己目標を再考するよい機会でもあります。健康に留意し意欲と誇りをもって、互いに第61回展への新しい一歩を踏み出しましょう。

鈴木信太郎賞

絵画部会員　福家省造

私の年齢は一陽会の回数と同じで、2014年で60歳になった。60年前といえば映画の「ゴジラ」が誕生した時でもある。子どもの頃は（今も）、SF映画や怪獣映画がとても好きで、あり得ないほど巨大に見える怪獣たちが怖くもあり、また、たくましさを感じるものでもあった。油絵を描き始めた頃は、ダリやマグリットなどのシュールレアリズムの作品に目を奪われ、自分を取り巻く不安感と、一途の光明を表現してみたいと思った。自分の作品のルーツはこういうところにあるのだろう。

自作については、不安感の象徴のような巨大なブロッコリーたちが、現代の閉塞感を抜け出し、「未来」や「希望」を語り、生きることの意味を問いかける存在になればと願っている。未熟な点も多いが、節目の年の大きな受賞を励みに、明確なイメージを持つ作品にする努力を積み重ねたい。御礼。

野間仁根賞

絵画部会員　宇留野信章

「良かった事」

定年後３年目で規約の最大寸法を描けたこと。／八畳の和室で床置きして描き、完成した作品をちゃんと見ていなかったが、会場で見たら今までより少しだけ頭に浮かんだイメージに近い感触がした。／先輩方のアドバイスで絵の見方が変わった。冷静に作品を見る事の本当の意味が解りかけた。／色々と褒めてもらえた。審査の時に手を挙げてくれた人が沢山いて仲間から認めてもらえた気がした。

「困った事」

夢中で描いて経過を覚えていないので次回も一から出直し。／次回作もという下心がつい出る。一昨年の会員賞の後も、一年間、雑念に惑わされた。今回も危ない。

絵は平面の上に色・面・線・形を置くだけの事。生きている間は描きます。目標はもっと楽々と簡単に描くこと。今後も見捨てずによろしくお願いします。

高岡徳太郎賞

絵画部会員　山田久子

千葉の一陽展に出品するようになってから20年余りになりました。今回思いがけず高岡徳太郎賞を受賞し感激しております。今までテーマも定まらず毎回出品後は悔いが残り恥しい思いばかりしております。時間を表現するモチーフが何かないかと悩み、鏡・骨・糸車（褒の河原）など常々考えておりました。３年前、初めて清水の舞台から飛び降りるつもりで個展をしました。その際、英字新聞の中にコンパスを入れてみたら、平面ばかりなので穴を入れてみたら、というアドバイスを頂きそれを今回取り入れてみました。天の声を聞いた思いです。主婦が細く長く続けてこられたのは、周囲の方々の御指導や家族の理解の賜物と改めて感謝しております。

植木　力賞

彫刻部運営委員　中村義孝

私が出品し始めたころ（1977年）、植木力先生はすでに一陽会の重鎮で私にとっては雲の上の人でした。その後、私が会員になってからも先生とは挨拶ぐらいで、ほとんどお話をする機会も見つけられないまま過ぎてしまったことが今更ながら悔やまれます。若いころは私のことなど先生の意識の中にはないものとずっと思い込んでいました。第40回一陽展の時に、突然先生からお手紙が届きました。今回出品した作品は良かったので、今後も精進するようにという内容の言葉が書かれていました。何か大きな賞をいただいたように嬉しく、励まされたように感じました。この時期先生は既に80歳を過ぎていましたが、会の発展を想い若い人を育てようと腐心されていたのでした。今回植木賞を頂いたことで改めて先生に想いを馳せ、一陽会彫刻部の後進の育成について真剣に考えていかなければと思っております。

スカラベとは……???

別名タマオシコガネ、コガネ虫科の甲虫の一種。ファーブルの『昆虫記』で有名。この虫を意味する語が生成の意味にも通じ、天地創造の神、また球状の玉を転がす習性から古代エジプトでは太陽の神の象徴として神聖視され、これを型どって護符とした。護符は貴石や陶器などで作られ、装飾品や印章としても用いられた。ミイラの心臓の上に置かれたものは、復活を祈願するという意味をもつ。（広辞苑、および百科辞典マイペディアより抜粋）

美術団体一陽会を創立した際、シンボルマークとしてスカラベを冠したことは、大先輩の諸先生たちの慧眼にほかならない。一時はこのスカラベを軽視するかのような向きもあったが、反省と自戒を込めて第59回展で、まさしく復活したのである。

スカラベ賞

絵画部会員　亜衣千里

年明け早々何年振りかで横尾忠則氏をテレビ番組で見た。おかしかったのは、製作中アトリエに近寄るのが厭なとき、やたら冷蔵庫を開けてみたり閉めてみたりとか、その他色々と興味深い番組でした。

明日は朝から描こう。それが２～３日ずれ込み、搬入期日に向って悪戦苦闘の毎日が度を増して続き、搬入の当日朝まで筆を持ってウロウロ。年によっては、後一週間あればと…反省する事も。それでも日常にかえると、やはり描いている時が一番良い日々の過し方であったと思われます。

スカラベは太陽の照りつける中、球をコロコロころがしながら、一生懸命生きています。頑張らねばと思います。

スカラベ賞

絵画部会員　石川三知代

一陽会の発展のために力を尽くし、心身をすり減らして亡くなられた、勝一晃先生と北山泰斗先生。両先生の仕事の一端を一緒に手伝わせていただいた亜衣千里会員と共に、受賞できたことをうれしく感謝いたします。

一陽会の長い歴史からみれば、ほんのちょっとの間、地中にもぐっていたスカラベが戻ってきたようで、太陽を高く掲げた姿が、末永く続くことを願っております。

スカラベ賞

絵画部会員　垣内力ツアキ

とても賞にはほど遠く、前時代的な作風とも思える拙作に対し、60周年記念展での受賞は、感謝と反省、喜びと驚きの入り混じった複雑なものであった。

ある種の達成感とも思える嬉しさはあるのだが、未だ未だ果てしない道の途上での出来事だから、手放しでは喜べない。今後どう歩くかを考える、大変良い機会を与えていただいたものと受け止めている。創立以来この会は価値感の多様化の中で、時代と共に少なからぬ変化をし乍ら推移して来た。その中で、本質的には自由な精神で、個性的な作風を進める前向きな作家の作品が多く並ぶ会場の雰囲気は然して変っていない。

今回これを機に、初心に戻り己の道を直向き突き進む、更なる勇気を与えていただいたものと思い、改めて深く感謝をしている。

スカラベ賞

彫刻部企画運営委員　三輪乙彦

第59回一陽展にて新しく創設された「植木力賞」、続いて第60周年記念展において、スカラベ賞を受賞、喜びと共に本当に身の引きしまる思いです。前年にスカラベ賞を受賞された彫刻部の重鎮、内田英先生の作品「路標」がとても新鮮で、瑞々しい作品が浮んでまいります。寂しいことに絶作となりました。一陽会創立の際、一陽会の象徴「スカラベ」を冠した、創立会員の当時の熱き思い、第３回展まで会場は高島屋、第４回展から念願の上野の都美術館にて、然も第二陣のなかで創立会員の先生方が支え合って、地下室で活動されておられたお姿が、時を越えて浮んでまいります。野間先生が描かれた、コバルト色の七宝のスカラベが今も輝きを失なわず、私の手元にあります。私達「創立当初の精神」を大切にジャンルを超えて、後輩の人達と共に「新鮮で魅力ある一陽会」を築いていきたく思います。

60周年記念賞

絵画部会員　西山恭申

「生きているうちに、この日を迎えられるとは」と84歳のピーター・ヒッグスさんは感慨深げに語った。世紀の大発見まで48年。2012年7月4日、「神の粒子」ヒッグス粒子は見つかった。真空の一点に膨大なエネルギーを注入すると、ヒッグス場は振動し、その振動が粒子となって叩き出される。真空を満たすヒッグス場は、物質に質量を与えてこの宇宙を誕生させた。ついに、「標準モデル」は完成。この世界を構成する物質(粒子)と空間（場）を作る17種の全素粒子が確定された。

科学は絵画を励起する。光学とダ・ヴィンチ、カメラ・オブスクーラとフェルメール等。科学モデルの革新は新しい絵画モデルの発見に繋がった。「前人未踏の新分野」を目指す一陽会の精神は、60年を経ても普遍的で新鮮。一陽会と出会い、多様な絵画の世界を知り、導いて頂きました。夢は高い目標に一歩でも近づくこと。身に余る評価にビックリ仰天しています。今後も皆様と共に歩ませて下さい。

青麦賞

絵画部　高橋章子

十年くらい前の事でした。持病の通院の帰り、関西一陽展を見に行きました。そこに同級生の作品がありました。私は卒業後、難病を抱え入退院の繰り返しで、家事と育児で精一杯の生活でした。絵は、全く描いていませんでした。そんな自分が悲しくなり自分の出来る事からやってみようと、水彩画から始め、昨年、関西一陽会に出展出来るように頑張ってみました。大阪市長賞を受賞出来た事と、本展に出展へと声を描けて頂いた事にびっくりでした。今、思うのですが、絵を描いていなかった月日も大切な時間だったかと思います。そして仕事が出来るほど回復出来たのも、絵を描く気力と周りの方々の支えも大きい事でした。本展で青麦賞を受賞出来た事で、支えてくれていた方々が喜んでくださった事が何より嬉しかったです。

一陽賞

絵画部会友　妹尾佑介

一陽賞受賞の知らせを頂いた時、私は非常に喜び、同時に安堵の気持ちも感じていました。と、いうのも同じ作風で描いたF50号の作品が地元の県展であまり評価されず、自信を失いかけていたところだったからです。自分の描きたいように描いただけではダメなのか…?作風を変えないといけないのか…?そんな不安を抱えての一陽展出品でした。しかし一陽展では多くの先生方から自分のやりたい絵にどんどんチャレンジしなさいと励ましのお言葉をかけていただき、不安が勇気に変わりました。ありのままの自分の個性を認めてくれる一陽会に出品していてよかったと強く感じました。技術の未熟さゆえに反省すべき点は多々ありますが、先鋭なる未完成を目指し今後もチャレンジし続けることがこの恩に報うことだと心に刻し、精進します。ありがとうございました。

青麦賞

彫刻部　清水紀子

一陽会へは第60回記念展で3回目の出品となります。今回用いた技法であるイタリア式蝋型鋳造法は、塑造による原型制作からブロンズに素材転換され作品として完成するまでに数多くの制作工程があり、その工程それぞれに造形的な意味を見出すことができます。

作品「帆船」は昨年度、そのイタリア式蝋型鋳造法を用いることで生まれる造形性について研究する目的で制作した私にとって非常に思い入れのある作品です。作品の構想を練る際にその時点でタイトルまで決めてしまう場合が多い私の制作に対する姿勢の中で、この技法を用いることは制作しながら純粋な造形の面白さを追及する時間を持ち、作品をより良いものにしていくことに繋がるのではないかと考えています。

会友賞

絵画部　荒井哲夫

道はまだ遠く

“音楽は世界から目に見える物と、手に触れる物を抽象化してしまった。彫刻は世界から言葉や音曲など耳に聴こえるものを抽象化してしまった。絵画は耳に聴こえるものと、口で伝え得るものを抽象化してしまった。”と、著名な作家が記しておられますが、画面から音楽が流れて出ているように感じさせられる、意図的に抽象化し昇華された作品は素晴らしいと思います。さて、私の作品はどうなのかと言う話です。身内からは、「上手いのか下手なのか判然としない作品である。（暗に下手と言っている）。もう少し分かり良い絵が描けないのか？」と、言います。挙句には、フェルメールの“真珠の首飾りの少女”を引き合いに出して、あのような絵が良いと言う。（それを贔屓の引き倒しと言うのですよ）。

閑話休題。今は端緒についたばかりと実感しています。道は遠く、遙かまで続いているのである。

会友賞

絵画部　岩田明美

砂浜を歩く。・・・今日の空は薄曇り。それでも波が穏やかで、風が心地良い。遠くに釣り人が見えるが、波音しか聴こえない。寄せては返すその調べを聴きながら「ふぅ～・・」思い切り深呼吸。

「あら？‥」雲の切れ間から、海面に一筋の光が！ブルーグレーの波間がそこだけキラキラ・・・輝いている。明るさと深みを表現し‥輝いている。きっと、私が気付かぬ間にも、こんなドラマが繰り広げられているのだろう。

砂浜を歩く。・・・この浜には、絵のモチーフの取材に来た。今日は、面白い流木に会えるかな。木屑の中から掘り出す時もあれば、どんと迎えてくれる時も。全く会えず帰る事が多いが、流木の想いを描き続けられたら幸せ。そんな事を考えながら・・・砂浜を歩く。

会友賞

絵画部　菅原礼子

好きな時に心が赴くままに好きな絵を描く。私の絵に対しての向い方です。

一陽展会期中は会場にほぼ毎日足を運びました。その都度気になる作品が違い、又同じ作品を改めて観ると違って見えるからおもしろい。今までは会に出展はしたものの皆さんと馴染めないでいました。お当番を機に著名な諸先生方先輩方に接する事が出来、一陽会の暖かい雰囲気の中で自分なりに、もう少し頑張ってみようかなと思うようになりました。

今回の絵はインドの各地に現存する地底寺院の一つ『アダーラジ』です。40度を優に超す炎暑の中で、水と涼を求めて地下水のレベルまで地底深く降りて行く、美しく不思議な建物にひかれました。地底といってもその空間は、上空からの自然の光があふれ、地下水に満たされ、大地の中につつまれるという、地球との一体感を感じずにはいられません。

絵の中へ入って頂けたでしょうか？

会友賞

絵画部　内藤　汎

一陽会初出品（2001年）は油彩で、その後アクリルに、現在はエアブラシで描いています。描く対象も、風景から、生物（静物）、抽象へ変ってきています。風景をキャンバスに写すことから始めたのですが、自分のイメージを強く出しやすい抽象へと移行してきました。今、私の好きなモチーフは宇宙、ビッグバン、銀河、太陽系、地球などマクロなものと、細胞、遺伝子、微生物、石の結晶などのミクロの世界です。中でもミクロン単位の微生物、生命体に特に興味をもっています。今回の作品「水の惑星」は多くの生命体を育む地球と、生命ピラミッドの底辺を構成する微生物をモチーフにして描きました。

全く私的な思い込みと未熟な技法の絵を「会友賞」として、評価いただき、次の作品への大きなステップにしたいと思っています。

会友賞

彫刻部　松下良徳

彫刻は出来るだけ、無駄なものをそぎ落として、ごつごつしていながらもシンプルな形を求めるものという考えを学生時代からの基本としながらやってきましたが、今回は塑像粘土特有のマチエールや木や石では表出しにくい粘土でのデフォルメ、塊としての強さ、素朴で地味な人間像をイメージして制作しました。美術教師という仕事の合間に、時間をかけて制作しました。生徒に制作をさせる上でも、自分自身の制作が、授業をするうえで大事だと思い制作しています。美術教育の現場も厳しい状況です。生徒とともに、いかに現代的な彫刻を作れるか、諸先生や先輩方の助言を糧に努力していきたいと思います。

「さくら」

絵画部 会員　北嶋 三智子

冬至も過ぎ、一日一日と季節が明るさに向かって昼の時間が長くなって行く。特に今年は太陽と月が同時に復活する祭とされ、新しい事が起き、新たな力が涌く年となると言われています。

毎年、六本木に向けて新しい年が始まり、今年もよかったと思える作品を描きたいと念じながら、描く絵の音を聴き、色を視、自分の心の中にあるものに近づけたか、表現出来たかと、毎回、時間を重ねていく一年が始まります。そんな自分の中でのこと…

絵にも、読む人の思惑にも関係なく、私の今一番、気に入っている大事な「さくら」の事を書いてみようと思います。

「さくら」はある春の雨の日、娘に附いて、我が家にやってきた白猫です。まっ白で大きな眼で誰が見てもかわいい！我が家に代々いた猫の中で一番猫らしい。それでいて自分勝手でアンポンチンなのです。高い樹には登れない。よほどの事がない限り鳴かない、獲物を捕まえてきても、すぐ逃げられる。外にいるノラッチ猫に舐められているので、いつも家に入るにも、こっそりノラッチのいる場所を避けて入らなくてはならない。寝る時は、ねかして、ねかしてと訴えて、背中をトントンしてもらう。

私はどちらかと言うと、周囲の出来事に関心が薄い方ですが、「さくら」だけは特別で、いつまで眺めていても、触っていてもホッコリとした時間が流れて（しまった！やらなくてはならない事があったのに）そんな事が度々で、家族のひんしゅくを買います。

私の絵画教室でも、猫をテーマに描いている方が何人かいますが、猫は人の生活に深く入り込んで、家の中で誰が一番偉いか、自分をかわいがってくれ、言う事を聞いてくれるのか良く知っています。これは犬の場合も同じらしいですが…。

しかし長い間、留守番をさせて、かまってやらなかったり、気に入らない事があるとダメダメと言われて、叱られる事（仕返し）をします。

人間の世界でもありそうな事です。「さくら」のようにニャーと鳴けば、命にかかわる事でなければ、何でもありと思う、こんな私は甘いでしょうか？

自分はツイている

絵画部 会員　藤本元美

現在65歳。私の人生を振り返ると、残念な出来事や失敗の連続であった様に思う。

階段を駆け上がり、ゼイゼイと言ってホームに着くと電車が出ていくような人生。

エレベーターに最後に乗り込むと、いつもブーとブザーが鳴り、乗り合わせたまわりの人から、あなたのせいだと睨まれる人生。

飲んべえで、酒の上の失敗も数限りなく繰り返してきた。冬の寒い夜、自宅とは遠く離れた最終駅のベンチで、ガタガタと震えながら一晩を過ごすこともたびたび。よく今まで凍死しなかったものだと感心する人生。

一陽会でも、初入選から二十数年は思う様に描けず、展示されるたびに自己嫌悪に落ち入ってきた。全てに自信を失ってきつつあった頃、ついに画題や描法に行きづまり、描くことも、一陽会に出すこともやめようと思い、尊敬していた会員の方に相談をした。するとその方は、絵のことについては全く触れず、「これは松下幸之助さんの受け売りやけど、自分はツイていると思える人がツイている人生を送れるんやで！」と助言をしてくれた。「自分はツイている、運がいい」なんてそれまで考えたことがなく、不運こそが人生だと思っていたので、その話はすぐには信じられなかったのだが、ほんの少しずつ「自分はツイている」と自分への説得を試みるようになった。たとえば、電車のドアが目の前で締った時は、「私はツイている。今の電車に乗っていたら、きっと事故に遭っていたに違いない。」と思い込むようにしてみた。すると不思議なことに、自分の身のまわりに起きた幸運や不運が、全て運命の糸でつながっているように思えてきたのである。勤め始めた時、同僚の方が一陽会の会員で、その方に強く勧められて一陽会に出品するようになったのが、私の人生のツキの始まりだと改めて気付いた。一陽会に入ったからこそ、今の仲間にも出会えたのである。自分の絵も悪い部分を直すことばかりを考えるのではなく、良い面、ツイている面を見つめ、さらに伸びると自分に信じさせることが上達の秘訣だと思う。

最後に、わが妻との出逢いこそ、人生最大のツキなのだと自分への説得を試みている…。

会員推挙

絵画部　安孫子百合

ネコがスキです。犬も好きですがイヌの切ないほどの優しさが、胸につまる時があるので、自分勝手（に見える）なネコがいいなあ～と思います。そんな「ネコ山」が描きたいです!

会員推挙

絵画部　石川敏夫

私が一陽展を初めて見たのは、約20年前です。レベルの高いエアーブラシの作品が多い印象でした。初出品の当時、委員の鶴田猛さん（故）と作品に関して歓談した事を想い出します。創造に試行錯誤の作品制作です。

会員推挙

絵画部　宇梶陽子

一陽会のシンボル、スカラベは五千年前のエジプト人らに創造、復活、不死の象徴とされた。この昆虫は後足で大きな球を作り続け、それが太陽を想起、崇拝された。黙々と作り続ける勤勉さ！私も見習いたいものです。

会員推挙

絵画部　楠　忠臣

多くの先生方の御支援、御指導のもと、図らずも会員になることが出来ました。

大変感謝しております。

絵画の技量は…?　これからも精進し一陽会のお役に立てればと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。

会員推挙

絵画部　香焼直美

子供絵画教室を主宰し、楽しんでおりましたが、大人クラスの指導を続けるうちに壁にぶつかり、一陽会との出会いがありました。人物をモチーフに決め、迷い…苦悩する少女等を描き続けております。年末予定の初個展に向け頑張ります。

会員推挙

絵画部　小西明人

明人はペンネームです。絵を始めた頃、仕事と子育てが忙しく、画家は深夜です。明人になってキャンバスに向うと、無中になれました。今回推挙頂き大変戸惑いました。今は『これから』と自分に言い聞かせています。精進します。

会員推挙

絵画部　小沼由理子

年を取ってから生き甲斐がないと困るだろうな～の理由から始めた絵ですが、水彩画講座に通い始めまもない頃、写生に行き、ほぼ描き上げたと思った私に、先生が助言下さった途端、目からウロコでした。15年前の事です。

会員推挙

絵画部　斉藤光彦

私は、43回一陽展初出品以来、60回に至る迄、連続出品出来たことを励みに、絵画を絵楽（カイラク）として、昭和レトロの建物を今のうちに描いて、残しておきたいと思う気持ちで、描いています。

会員推挙

絵画部　宍倉綾子

私が水彩色鉛筆に興味を持ち、最初にモチーフとして選んだのがカボチャでした。それから増々その形や大きさ、模様の複雑さに驚き、のめり込みました。気がついてみればモチーフはカボチャばかりになっていました。それでも自然の造形美にはいつも感動です。カボチャに対峙する度に難しい色、形だと悩むのですが、また楽しみにもなっているのです。これからもカボチャに出会う度の不思議な感動を表現したい。

会員推挙
絵画部　芝西　広美

先輩方に恵まれ、一陽会に初出品させて頂いたのが21歳。三十数年を経て…嗚呼。

季節や時間の変化という、移ろいを大切に過ごす中で、描かせて貰える環境に感謝して、ず～っと続けたいと思います。

会員推挙
絵画部　髙森　和子

六十歳で絵を描き始めて何時の間にか今では八十八歳になりました。現在の目標は九十歳になったら個展を開くことで、夢の実現に向けて、何事にも挫けることなく自分らしく精一杯努力して行きたいと思っています。

会員推挙
絵画部　たつみ ゆうこ

編集子=注　たつみゆうこ新会員は御家族の御病気看護のため、メッセージはいただけませんでした。顔写真のみ本人の承諾を得て掲載します。

会員推挙
絵画部　生田目 温 子

小学生の頃、ペン・シャーンの「赤い階段」に一目で夢中になってしまいました。以来、西洋美術に憧れて、何とか描き続けてくることができました。今後も前向きに取り組みたいと思います。

会員推挙
絵画部　新村　則一

今は、見渡せば花も紅葉もなかりけり・・・という心境です。

もう少し若い時に真面目にやっておけば、お役に立つこともできたかもしれません。後悔先に立たずというところです。結局、この歳になってやっと自覚したような次第です。

絵はこれからも描き続けるつもりですので、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

会員推挙
絵画部　西浦まゆみ

優しくて温かい励ましに包まれる心地よさに浸りながら、絵を描き続けられてきたように思います。幼い頃夢見たような画家には、まだほど遠い所にいますが、感謝の気持ちを作品に込め、伝えられるようになりたいと思います。

会員推挙
絵画部　西谷のり子

キャンバスを前に今の私のどんな生き様が現れるか、楽しみでもあり産みの苦しみでもあります。私らしい傑作を目指して日々葛藤していますが、併せて「継続は力なり」思い知らされているこの頃です。

会員推挙
絵画部　林　　圭二

余暇に何をしようと思案していた時油絵の講座を知り、仲間に入れてもらい、10年になります。今回会員推挙の知らせをいただき、御指導いただいた先生、皆様に深く感謝しております。反面、プレッシャーも感じています。

会員推挙
絵画部　古田　恵子

おかげさまで、人によって育てられてきたという、実感をいただいています。

絵を描くということは、自然への回帰だとすれば、赤ん坊のような、とらわれのない心の状態を、思いながら描きたいものです。

会員推挙
絵画部　幕田今日子

一陽会に初入選して以来、感慨無量な事だらけです。初めて懇親会に出席したときは、会場の皆様が、宇宙人のような、とても大きな存在感に圧倒されました。何か別の世界に来たように覚えております。

第60回展　新会員紹介

会員推挙
絵画部　丸山　　宏

絵を描き始めた頃から画面構成とモチーフで悩んできました。その後は色に悩み、使う色が変わりました。今の悩みの中心はマチエールです。これからも悩み迷いながら描いていくと思いますが、続けられれば幸いです。

会員推挙
絵画部　丸山　光子

記念すべき創立六十周年一陽展で夢想だにしなかった「会員推挙」の知らせを受けて身の引き締まる思いをかみしめています。

収穫したばかりの活きいきした玉ねぎ、そして季節を歴て畑や物置に放置されたそれ等は、私に描写欲を掻き立たせるのです。

会員推挙
絵画部　三浦　安針

私は【最後の楽園】という絵画のシリーズ作品を十数年来制作、日本や世界各地にて発表してきました。（昨年末にもモナコ公国委員会展に招待され、モナコのアーチストたちと共に定期展に参加してきました。）

私ごとですが、ここ数年実在的「私小説的具現化プロジェクト」に費やして来ました。これは、時間、費用もかかる大変面倒な仕事です。これを簡単に言い換えるならば「実在表現空間」=「場、環境」という手法を取った表現です。一陽会員という環境で、また違った形で次のステージに紹介できることを、うれしく思っています。

会員推挙
絵画部　三井　昭典

今、描きかけのキャンバスが目の前にある。様々な色が縦に横に流れている。まだ、みえない。でも、何かが動き、騒ぎ出し始めた。身体の奥に色と形が響き合う時がいつまで続くのか、さあ、キャンバスに向かおう。

会員推挙
絵画部　宮川　正市

偶然、妻の誕生日に会員推挙の知らせを頂き最良の贈物となりました。久々に画風転換の大冒険、恩師佐川先生の激励を勇気に変えて画面に対峙、モチーフに多少なり緊張空間を表現出来たと思うのは自画自賛だろうか。

会員推挙
絵画部　村田　宏人

初出品は31回でした。毎回、モチーフ及び表現方法に悩み・・・時には、技法に頼った浅い作品になったりしました。

今後は、より広く、より深く掘り下げ、更に消化し、感動、感情が伝わる作品を描きたいと思います。

会員推挙
絵画部　木匠　幸江

今から半世紀程前、内房線（房総西線）を蒸気機関車が走っていました。（煤煙を浴びながらの通勤、通学でした）

一陽会に出品するようになり、機関車と格闘してきましたが、近年寄り切られた感じです。この上は、機関車を遥かな宇宙に飛ばして夢を追って見ましょう。

会員推挙
絵画部　山崎　綾乃

平成6年が一陽会初出品でした。60回記念展で会員に推挙して頂き、これからも先生方のご指導をお願いしながら、一陽会の皆さまと共に夢を追い続けたいと思います。

会員推挙
絵画部　依田千恵子

私は長野に生まれ、結婚後は転勤生活がつづきました。

たまたま長野の家の裏に葡萄畑があり、たわわに実った木の下で、メェメェ啼くヤギのいる風景を、これから画の中に表現してゆきたいと思っております。

会員推挙

絵画部　米山　歩

訳あって、遅い出発でしたが、絵もようやく佳境に入った感じがしてます。

思えば、一陽会と出会わなければ、独自の物を出せなかったのじゃあないかと、その様に感じてます。

絵も人生も、スタートラインに立ったところかと。

会員推挙

版画部　永澤　一美

51回一陽展が初めての入選でした。旅行以外地方から出たことのない私が、まして東京で展示して頂けるなんてと、感動した日が蘇ってきました。色彩や構成など課題はまだまだ残されていますが、造形美、自然美、そこに潜む心を大切に、先輩方の優れた作品に刺激を受けながら、これからの制作に取り組んでいきたいと思っております。

会員推挙

版画部　狭間　潤子

初出品から11年目に会員となりました。先生方のご指導の賜です。当初は円空仏を回想的に、現在は円空仏と自分の関係を多視的に表現しています。今後も先生方のご教示を仰ぎ、私の版画を追及したいと思います。

会員推挙

彫刻部　鍬田　和見

作品制作は、その活動を通して自分自身や世界の在り様のようなものが見えてくるのが面白いです。今回、会員に推挙されたのを機に一層制作に励み、自分や世界の真実=美の追求に真摯に精進していきたいと思います。

会員推挙

彫刻部　浜谷　信彦

デザイン・イデア的な形と自然界の現象的造形には差異がある。それを積極的に捉え、陶磁素材を主に、造形プロセスから生まれてくる形と自我的デザインとの葛藤・対話の中から見えてくる造形美術を探求している。

会員推挙

彫刻部　松下　良徳

個性のある塑像が出来ればと、制作を繰り返してきました。

今は、冬−15℃になる真田の深い山の中にプレハブを建て制作しています。更に諸先輩方に批評をして頂き会員という自覚を持って研究を深めたいと思います。

会員推挙

彫刻部　村山　悦子

彫刻を始めて早34年。人生は色々な事があり、制作を続けることは大変でしたが、挫折しそうになった時に自分を支えてくれたのも彫刻。人生において自分と向き合う時間は貴重でした。そして一陽会の「尖鋭なる未完成こそ…」という言葉に心高鳴り、いつも励まされてきましたが、これからも精進していくつもりです。

第60回展　受賞者紹介

本江邦夫賞（評論家賞）

絵画部

鹿又　保子

「新しい出発点」

私の作品の転換期は結婚して子供が生まれ、子育てという現実にウエイトを置かざるを得なくなった時でした。もう37年も前のことです。

以前は暖色系の心象風景の中に人物を取り込むなど一ひねりしていましたが、忙しい日々の中ふと目にした木々の緑の葉が見せる生命力や力強さ、心の安らぎ、そんな緑の葉に魅せられて描き始めました。頭でっかちな心象風景よりも圧倒的な、「いのち」の存在感！対象を良く見て、そこへ自分の気持ちを素直に描き込めばいい・・・。

地球環境の危機が叫ばれ、人類の将来が案じられる昨今、私の絵に共感してくれる人が、一人でもいればと思っていました。緑の木々、その木々に必要な水、今はその水を取り込んだ作品に変化して、60周年という記念すべき時に、賞までいただき、感激しています。これを新しい出発点にして、色をもっと研ぎ澄ませ、自分の気持ちをより良く表現できるよう、さらに精進したいと思います。

損保ジャパン日本興亜美術財団賞

絵画部

岡崎　昭夫

毎年四月から黄色で下塗り。ジェッソを数回塗ってはやすりで研ぐ作業を数ヶ月。テクスチャアをつけてスプレーでフロッタージュすると、画面の黄色の乱舞が千変万化で心地よい。この瞬間のために私の一年がある.

野外彫刻賞

彫刻部

小林　達也

いまの世のなかは、バブルが崩壊した後に「失われた20年」が続き、いまだに世は内向き、活気が見られない。しかし、作家は粛々と我の想いを作品に表し刻むのである。

会員賞

絵画部

大北　節子

自然災害が多い国で生きていることを実感する出来事が続きます。それでも自分の事と捉えられずに日々を暮らしてしまう。平穏無事に活きる事は難しい。「危険の感覚をなくしてはならない」好きな詩人の言葉です。

会員賞

絵画部

古賀　敦子

ガラス絵はガラスという特性からも、ミニチュアアートと思われがちです。

小品という概念にたらわれず、魚を媒体として汚染された地球の危機を、ガラス絵の透明性を生かし表現できればと思っております。

会員賞

絵画部

白井　正浩

学生の時分アルバイトで額を運んだとき、一陽会に誘われた。その先輩会員が亡くなって、10年になる。22年間、色々な出会いに感謝感謝。会員賞受賞、素直に嬉しい。北陸新幹線開通も、又嬉しい。

会員賞

絵画部

田中知佳子

心象風景を描いています。

その時々で、心ひかれる物、形、人、等々…一つ一つ。

今は、色彩に一番関心があり、描きたい形に思う色彩が決まるとワクワクします。そんな幸せを求めて描いています。そして賞は何よりの励みとなりました。

会員賞

絵画部

廣門　幸三

以前から、背景に取り入れていた火力発電所を中心に描こうと思っていた。原発事故後発電の在り方につき、私なりに考えさせられた。作品にソーラー・風力＆11の数字を加えた。願わくば、作品を通して何か感じて欲しい。

会員賞

彫刻部

染矢　義之

彫刻の道に進んで30年、振り返ると平坦な道ではありませんでした。それでも幾つかの峠を越えられた時、そこまでは苦しくとも、清々しい気持ちになれます。会員賞を受賞したことも峠を一つ超えたかと思うのです。

一陽会創立60周年記念シンポジウムから見えてきたもの

絵画部 運営委員　泉谷　淑夫

2014年10月5日、記念講演会・シンポシウム当日の日曜日は、あいにくの雨である。しかもオープニングに合わせて地方から上京していた人たちは、皆帰ってしまった。多数の集客を望めない状況の中、それでも強い雨足にもめげず国立新美術館の3階講堂には一陽会の有志、そしてその関係者など60名ほどが参集してくれた。ありがたいことである。赤津先生が講演会で一陽会の未来にエールを贈ってくれた後、午後2時20分にシンポジウムがスタートした。テーマは『新生・一陽会の未来を語る』である。「新生」と付けたのは、

公募団体をめぐる厳しい昨今の状況からも、創立60周年で還暦を迎えたことを喜んでばかりもいられず、「新しい一陽会のイメージを共有できなければ、明日はない」という危機感をメンバー諸氏に持ってもらいたかったからである。また、59回展の会場の充実ぶりから、私の中に「新生・一陽会」へ期待させるものがあったこともその理由である。

シンポジウムの登壇者は三名。一陽会の近未来を背負う若手会員を選んだ。絵画部から小松正司氏（35歳）と古田恵子氏（50歳）、彫刻部から土井敬真氏（40歳）。三人とは事前にメールでのやり取りや意見交換のための会合を持って意思の疎通を図ったが、いずれもしっかりとした考えを自身の制作や一陽会に対して持っていると感じられた。三人の紹介は講堂の大きなスクリーンを使って、スライドショーで行った。初めに主な画歴を紹介した後、代表作3点と記念展出品作を提示し、最後に作者からの一言をもらうという流れである。原寸よりも大きな映像は迫力があり、この紹介は参会者からも好評であった。司会・コーディネート役の私が彼らに付したコメントは、小松氏は「油彩技法の確かさ」、古田氏は「空間構成の豊かさ」、土井氏は「素朴に秘められた芯の強さ」である。

次いで司会からこのシンポジウムのねらいと三つの論点を提示した。メンバーの高齢化、若者の公募展離れ、美術界における地位の低下など、公募団体を取り巻く近年の状況は厳しい。その中で、一陽会が60周年を機に一陽会の魅力と課題を再確認し、現メンバーの自己革新に向けての意識と意欲を高めるとともに、これからの会の方向性を探ること、そしてそのイメージをメンバーが共有していくこと、これがねらいである。そこでシンポジウムの流れが散漫にならないように、また限られた時間を有効に使うために、論点を以下の三つに絞ることにした。論点1は「公募団体展としての一陽会のよいところとは何か」、論点2は「公募団体展としての一陽会の使命と課題とは何か」、論点3は「公募団体展の中でどのように自己革新に取り組むべきか」である。以下にその概要を記してみたい。

■公募団体展としての一陽会のよいところとは何か

このテーマを設定したのは、厳しい状況はさておき、新しいスタートに際して必要なのは前向きな姿勢であるから、短所よりも長所を見つける方が元気も出るだろうと考えたためである。何しろ一陽会の60周年もなかなかのものだが、公募団体展の中には90周年や100周年を迎えた会もある。そしてこれまで公募団体展が潰れたという話も聞かない。これはその会に何かよいところがあるからこそ今日まで続いているのだろう。また自身を振り返ってみても、一陽会に出品し始めて32年、迷った時期もあるが、結局会を辞めることなく、出品し続けている。これもやはり会に参加することに何らかのメリットを感じているからだろう。そこで第1の論点を掘り下げる具体的な視点として、「①何故、公募団体展はこれほど長く続いているのだろう」と「②何故、自分は会を辞めないで続けてこられたのか」を設定してみた。これに対し小松氏は「社会に出てから仕事と制作との両立に苦しんだが、会に誘ってくれた大学の恩師に励まされ、ライバルと切磋琢磨しながら一陽会に出し続けることでその苦境を乗り越えてきた。会の先輩などからいただいた自作へのアドバイスなどはノートに書きとめることで、その後の制作に生かしている。所属している支部の温かい雰囲気にも助けられた。」と語り、古田氏は「子育てが一段落した頃、支部のリーダーに声をかけられて一陽会に参加するようになった。最初の頃の自分の絵の内容はひどかったが、2か月に1回の研修会などで、自分では気づかないところを指摘され、励まされたり、評価されたりしているうちに、少しずつ自信もつき、今日に至った。自分一人ではできなかったと思う。」と述べた。土井氏は「最初に出品した別の会は、組織的に大きすぎて自分には合っていないと思い、そこまで大きくなく、派閥などもない一陽会に参加することにした。社会に出てからも、苦しい中続けてこられたのは、仲間がいることやライバルがいることを励みにして頑張ってきたからだと思う。また自分のペースでは、個展やコンクールだけで制作活動を続けるのは難しいし、公募団体展に年一回出すというリズムが自分には合っている。一発勝負のコンクールではなく、継続的に自分の作品を見てもらえるというメリットもある。」と語った。フロアからは細川氏が、公募団体展の起源に照らし、日本独自の組織として公募団体展を位置付けた上で、アメリカのキュレーターが、日本の公募団体展のレベルの高さに驚いたという話を披露された。その背景には、必ずしも職業画家ではないにもかかわらず、公募団体展の作家たちにプロ意識の高さがあること、それが公募団体展の息の長さを支えていることを指摘された。

これらをまとめると、公募団体展及びその支部展の年1～2回の作品制作・発表がライフスタイルに組み込みやすく、制作の基盤になること、長いスパンで作家の成長を見守ってもらえること、仲間やライバルの存在が励みや刺激になることが、公募団体展としての一陽会の良いところと言えるのではないだろうか。フロアからも彫刻部の小林氏が「一陽会の先輩方の温かい目に囲まれて、30年近く色々なことを考えながら表現の試行錯誤を続けてきたからこそ、今の自分がある。」との感想を寄せていただいた。「長く続けてこそ良さがわかる」ということは、「継続は力なり」という格言にも通じるだろう。

■公募団体展としての一陽会の使命と課題とは何か

公募団体展としての一陽会が、単なる絵の同好会ではないと言いきるためには、何らかの社会的な使命を担っていることが必要だろう。公募団体展が社会的な注目を集め、若者がこぞって公募団体展に参加していた時代には、それが「美術界をリードする尖鋭な試み」や「有望な若手作家の登竜門」であったことは間違いない。しかしメディアも公募団体展の動向をめったに取り上げなくなった今日では、その使命も自ずと変わらざるを得ない。そして公募団体展が今も続いているということは、団体の関係者が意識する、しないに関わらず、そこには新たな社会的な使命が存在しているということである。

近年の公募団体展にまつわる顕著な傾向として、子育てを終えた中年女性や定年退職した熟年男性が応募してくるケースが増えている。一陽会にも50歳代、60歳代の「新人」は珍しくないし、人生の後半や終盤を美術に懸けてみようという彼らの決意に、並々ならぬものがあるのも確かである。その一方で、近年は若い人の公募団体展への応募が減り、会を代表するような作家を育成するのが難しくなっている。そこで、一陽会は中高年の人たちの生涯学習の場としての機能を果たしているだろうか、また一陽会は若手作家が入りやすく、彼らを育てられる環境となっているのだろうかという思いから、論点2の具体的な視点として「①生涯学習の場としての課題とは何か」及び「②若手作家の育成の場としての課題とは何か」を提示し、意見をもらうこととした。

これに対し小松氏は「自分には年齢的に一陽会が生涯学習の場という実感はまだないが、高齢の方から絵に関する質問を受けて指導したことはある。若手作家の育成に関しては、入会してもらえるように同年代の人に声を掛けたりもしているが、経済的な面の壁もあり、難しい。」と語った。若い人には「生涯学習」という課題はまだ身近ではないようなので、フロアから「生涯学習の場として一陽会が取り組むべきこと」を提案してもらうこととした。横須賀氏は「ある美術連盟の審査で高齢者の方々に声かけをしたが、大作は描けないということで、これからは会場に小品コーナーを設けることも一案ではないか。展示を上手くやれば、会場に変化もつけられる」と提案された。これに対し小松富士子氏は「小品コーナーを設けることで、メンバーの裾野は広げられるだろうが、作家意識が高い人と生涯学習として趣味的にやろうとする人とでは、制作に対する姿勢に開きがあり、その辺りをどうするかという課題は残る。」と指摘された。これらの意見に対し濱田氏が、「生涯学習の場としての課題とは、公募団体展での一人の作家としての成長を、どのように作家自身が受け止め、会としてそこにどう関われるのか、ではないのか」と再提案され、自身の一陽会での思い出の中から、野間先生からいただいた「絵描きは長生きしてナンボ。絵を描く人は星の数ほどいるが、90歳になって

も描き続けていれば、周囲が絵描きとして認めてくれる。そこまで描き続けなさい。」「ものを描く時に四苦八苦していては、人の心を打たない。」という二つの言葉を紹介された上で、自身の制作信条として「独自の絵画世界の構築は、制作活動の礎である。自分は不器用なので、長い猶予期間を経て70歳までに自己の表現スタイルを確立しようと考え、同じモチーフを描き続けてきた。その姿勢は批判もされたが、繰り返し描くことで見えてくる世界があり、表現技法を深化させることができた。この経験から、自身の制作においても指導する場合においても、そのようなことも参考にしてほしい。」と語られた。司会者からは「生涯学習」の捉え方が幅広いので、論点設定の補足理由として「若い頃に美術の専門教育を受けている人ばかりではないので、作品の講評とは別に、美術の理論や技術の基礎的なところを学んでもらう講座や研修会などの機会も必要ではないか。」と提案した。これに対してはフロアから村杉氏が「自分は美術の専門教育を受けていないので、今は日本美術家連盟の講習会などに参加しているが、一陽会でそのような機会が設けられればぜひ参加したい。」と要望された。

次に「若手作家の育成」に関する課題に関しては、古田氏が「30代くらいの若い人は貴重なので、県の美術展などで声を掛けたりしているが、なかなか仲間に加わってもらえず、富山支部ではいちばん若い人は50歳の自分。」という厳しい現実を紹介した。続いてフロアから清水氏が「一陽会が生涯学習の場として開かれていくためには、まずは一陽会の魅力を広めていけるかが大事で、公募団体展への参加のノウハウが分からない人も多いので、強力に誘ってくれる人の存在が必要。福井支部では佐川先生がその役割を果たされている。一陽会の魅力としては、自由な精神で自身の制作が進められることで、創立の宣言文にそれが述べられている。画家志望の若い人たちにもその魅力を伝えていきたい。」と発言された。若い人の勧誘に関して、大学で若い人を教えている土井氏は「今の若い人たちには物を作りたいという強い意欲を感じる人が少ない。やる気のある若い人でも公募団体展の人間関係を敬遠して、出品の選択肢の中からも外している。加えて今の若い人たちは手をかけて育てられているので、色々なことをやってもらって当たり前という感覚がある。一陽会の場合、展示面での魅力を考えると、絵画と彫刻が共存している空間は他の会にはなく、ひとつの魅力だと思う。」また「大学在学中は出品していても、卒業後は出さなくなる傾向があり、最初の数年で若い人の気持ちをつなぎ留めておく努力も必要だろう。」と語った。小松氏は「子どもができたことや、経済的な理由で辞めていく人もいる。力があると認めていた人が止めてしまった例もある。若い人たちが受賞した場合など、選抜展のような形で別に作品発表の場が与えられたりしたら、励みになってよいと思うし、他の会では、各支部の若い人を審査とは別枠の招待という形で小品を展示している例もある。」と進言した。司会者からは「若い人向けにホームページを充実させて、ネット上から参加を呼び掛ける方法も、人間関係を敬遠しがちな若い人には有効ではないか」と提案した。

以上をまとめると、生涯学習の場としての基礎教育的な部分は、支部によっては取り組んでいるところもあるが、全体としては不十分であり、会としてのフォローは今後の課題だろう。また一陽会のメンバー一人ひとりは、生涯学習を自身の問題として真摯に捉え、長いスパンで表現の深化に取り組んでいく必要がある。また会としては、多くの人に生涯学習の場として門戸を開いて行くことも検討すべきだろう。若手作家の育成に関しては、勧誘からして厳しい状況にあるが、まずは一陽会の魅力を展示やホームページなどから広く発信するとともに、出品後のアフターケアー体制を発表機会や経済的考慮などを含めて検討していくことが求められていると言えるだろう。

■公募団体展の中でどのように自己革新に取り組んでいけばよいのか。

一陽会の魅力を多くの人に発信する最も確実な方法は、メンバーの一人ひとりが、毎年の出品作に磨きをかけて、作品の質を上げていくことである。そのためにはマンネリに陥らないように常に自己革新を心がけていなければならない。「現在の自分はどうなのか?」を自身に問い掛けるのに、60周年はふさわしい機会である。そこで、初心に帰る意味で一陽会の設立宣言文を振り返ってみると、そこには「清新にして深奥なるもの創造に勉励し、新時代の美術を推進せんとする。制作上なんらの制約によって拘束されることなく、尖鋭なる未完成をこそ推薦し、前人未踏の新分野の確立に努力する。」とある。この中にある「尖鋭なる未完成」という言葉やそこから派生するイメージは、自己革新のヒントとして「新生・一陽会」のカラーになるのではないだろうか。そう考えて論点3の視点として「尖鋭なる未完成をどうとらえるのか?」を設定してみた。

「尖鋭なる未完成」のイメージと、自己革新のための具体的な方法について、土井氏は「尖鋭なる未完成とは、絶えず挑戦し続けること。それは作品ごとに何かを変えるということではなくて、作品の中に今まで試していなかったことや、できていなかったことを表現として折り込んでいくということかと思う。常に彫刻とは何かを自身に問い続けることで、彫刻観も変化していくし、それに伴って技法的な部分でも新しいことを取り入れている。考え方が変われば作品も自然に変わっていく。」と語った。古田氏は「尖鋭とは、アンテナを張って物事をとらえる感覚を研ぎ澄ましていくこと、未完成は、伸びしろがたっぷりあるということで、言わば子どものような柔軟な感性の状態ではないか。自己革新に関しては、絵の中では何をしても許されるので、例えば意外な色をまず置いてみて、そこから自分らしい絵にしていくとか、今まで使っていた色を使わないで表現するとか、そういう試みから自然と新しいものが見えてきたりする。結果が見えている表現に安住しないようにしている。」と語った。小松氏は「尖鋭なる未完成については、自分は個の確立が目標なので、自分に合った表現内容や技法を前面に出して、それを深めていくことだと思う。自己革新の一例としては、スランプで止めようかと思った時にかつて大学の恩師から言われた、スランプの時は一日30分でいいから描きなさいという言葉を思い出し、それに取り組んでみたら、徐々に自分のペースを掴めるようになったということがあった。また会話や本などで、これはという言葉に出会った時、自分のためのキーワードとして記録し、集めておくということも続けている。他には、鳥の目（マクロ的視野）で気づいたことを虫の目（ミクロ的視野）で確認するということも心がけている。」と語った。

この発表を受けて、フロアのベテラン作家たちにも、「尖鋭なる未完成」や自己革新の問題について語ってもらうこととした。塩川氏は「毎回課題を自分に仕向けているが、画面上にはなかなか変化が起きない。それでも少しでも変化が起きるようには努力している。」杉山氏は「自分はデザインの仕事で生計を立ててきたので、デザインと絵画の共通するところに気づくようになった。尖鋭に関しては、そういう中で自分が見つけてきたものがそれなのかなと思う。未完成とはずっと続けていくことではないか。」鹿又氏は「一陽会に入る前は、自分の内面を画面に表すような仕事をしていた。子どもができた時に転換期が来て、頭でひねって作品を作るというようなことができなくなった。それからは単純に自分の気持ちを表現する方法として、木の葉のような身近な自然をモチーフに、感じたことを表すようになった。最初は表面的に細かく描いていたが、その内に生命の循環ということに気づき、地球的な視野を持つようになった。」舘野氏は「自分も尖鋭なる未完成という言葉は好きで、それは自分と向き合い、常に初心に戻ることだと思っている。毎年の出品作は似たようだねと言われることもあるが、自分はいつもゼロからの出発だと思っている。最近は新しく建てたアトリエの前にある藪に惹かれ、あそこに真実があるのかなと、それを描きたいなと思っている。宣言文には、尖鋭なる未完成を推薦すると書いてあるが、それは会としてもそれに該当する作品を選んでいこうという姿勢だと思う。一陽会は支部が支えてきて面があるが、それに固執するのではなく、広い視野を持って、作品本位で選ぶということを我々も心がけるべきではないか。」小松富士子氏は「赤津先生が言われた、私たちは21世紀に居るんだ、ということを頭に入れて、社会の変化にも敏感であるべきだし、自分の立ち位置をしっかりと確認して制作していかなければいけない。それが一陽会の姿勢ではないか。」濱田氏は「かつて審査で若い人を推したところ、その人の支部の方が、まだ若いからいいということを言われた。これは若手育成という面ではまったくマイナスだと思う。若いからとかまだ早いということではなく、皆で若い人を応援していくという姿勢がほしい。」と、それぞれの思いを披露された。以上をまとめると、「尖鋭なる未完成」をどう捉えるかは各人各様だが、それが自己革新に結びついていることは明らかになったのではないだろうか。自分を見失わずに挑戦し続けること、そしてそのように努力している人を見出し励ましていくことが今後の一陽会に求められているのである。

最後に司会者として、「講演会で赤津先生が、時代精神を作品に取り込んでいく、ということを言われたが、この姿勢は尖鋭なる未完成につながっていく手立てだと思う。今後さらにメンバーが高齢化していく中で、我々が常に時代精神を作品に取り込んでいくためには、赤津先生が活躍するための条件として挙げた才能・努力・意志・健康の中で、まずは健康が大事だろう。精神力といっても、それはしっかりとした体力の上にしか宿ってくれないので、われわれも健康に留意して、しっかりした足取りで61回展を迎えたいと思う。」という言葉で、約2時間にわたる記念シンポジウムを締めくくった。

公募団体ベストセレクション美術 2014

東京都美術館　5月4日～27日

アーティストトークで絵画部作家作品を解説する舘野弘運営委員。彫刻、小林一夫運営委員も自作を語る。写真提供：濵田清運営委員

小松富士子

古田恵子

岡田彌生

舘野　弘

小林一夫

21世紀空間思考展 Vol.3

7月30日～8月12日 日本橋三越

伊藤正人

染矢義之

矢野　真

美しい響き 泉谷淑夫展

8月27日～9月2日 横浜高島屋 美術画廊

美しい響き 泉谷淑夫展

2015年
2月27日～3月30日
安芸高田市立
八千代の丘美術館

主催／安芸高田市教育委員会
八千代の丘美術館

阿部知暁の絵本 福音館書店

—The Dream of Forest—

阿部知暁絵画展

6月25日～7月1日
大丸東京店10階
美術画廊

平田慎一作品展

10月27日～11月1日　画廊るたん（銀座）

辻本光彦展　3月26日～4月5日

梅田画廊（大阪）

棚倉英雄 25年の歩み 油絵個展

4月14日～20日 木更津わたくし美術館

垣内カツアキ 秋の絵 冬の絵展

9月28日～11月30日 伊那アルプス美術館

三原路子絵画展

5月5日～10日
ギャラリー55（横須賀）

第32回 石井悦夫個展

7月21日
～27日

スパンアートギャラリー（銀座）

和泉　洗作品展　4月30日～5月11日

能美市博物館　後援／能美市美術作家協会
北国新聞社

水彩色鉛筆 河野緋紗子展

4月24日～29日　画廊ジュライ（千葉）

榎本紀代文／水彩画展

6月1日～7日 ギャラリーそら（大阪）

北嶋三智子作品展 ー そして、これから ー

5月28日～6月1日　福井県立美術館

後援／
福井新聞社
FBC福井放送
福井テレビ

Women's art symposium

GANGA-JAL

3月30日～4月5日
アートイベント
ガンジスの水

衛守和佳子
「月と雲」

2014 7artists　2月5日～9日　富山県民会館

古田恵子

桝田律子

小嶋英子展

4月25日～30日
ギャラリー睦
（千葉）

甲賀　保 第8回個展

2015年
3月31日～4月5日
十夢（静岡）

3月30日～5月2日
まめの樹（焼津）

日本ガラス絵協会展　7月14日～26日

gallery一枚の絵

石川三知代　川口文子

古賀敦子

高岡　衛

古野恵美子展

9月23日～28日　カフェギャラリー ビルゲート（京都）
11月18日～12月14日　ギャラリーなかむら（京都）

個展・企画展・グループ展 etc. report　★一陽会所属作家の活躍を誌上再現

三阪雅彦展

2015年
1月24日～31日
ギャラリー
嶋ノ内（大阪）

小松富士子 DRAWING展

12月8日～13日
ギャラリーセイコウドウ（銀座）

中村義孝 彫刻展

9月12日～10月24日
Musea Crocetti
ローマ・イタリア

伊日財団
日本文化会館
協賛

六綺敏光　彫刻家のアトリエ

作家とアトリエ展　12月20日～2015年2月15日

茨城県近代美術館

小林一夫個展

3月13日～18日
ギャラリー
Zaroff（渋谷）

小林一夫展　2015年1月6日～3月1日

MAGARIYA GALLERY（千葉）

尾島　守展

7月24日～29日
ギャラリー
ほりかわ（神戸）

宇梶陽子個展　11月8日～23日

ギャラリー金巴里（千葉）

第11回 DU NORD展

2015年
3月23日～28日
銀座井上画廊

藤田裕子

本間くみ

井上秀子

坂井幸子

小嶋英子

形と色の音感 三輪乙彦×三輪祐子

10月20日～12月12日
岐阜現代美術館

大鍬英治彫刻展 …点の世界…

1月4日～2月16日
石川県銭屋五衛記念館

三浦安針展　8月15日～19日

ギャラリーniw（東京）

衛守和佳子 椿陶芸展

2015年
1月13日～17日
llery絵舞遊
町田）

里地芳美油彩画展　4月6日～20日

GAS MUSEUM（東京）

3人展

4月23日～29日
白山市市民工房
うるわし

後援／
北國新聞社
テレビ金沢
北陸放送
エフエム金沢

西山恭申

柴山桂子

楠森道剛 翔 ~shou~

11月22日～30日
AIR SPACE
（芦屋）

楠森道剛　燦 —SAN—

Lei' OHANA（横浜）

グループ漂展 イメージの狩人たち

9月29日～10月4日　画廊るたん（銀座）

市橋哲夫

池田美津恵

高橋洋子

会場入口

田中正秋 特別展

5月1日～5日　東京プリンスホテル

版画作品

O.KA.KI展（石川）

6月27日～7月2日 グリーンアーツギャラリー

尾山隆夫

金田千佳

城戸清子

東　京　支　部
TOKYO

■支部活動

●**第18回東京支部展**　4月18日～4月23日（4月21日は休館）
東京都美術館（上野）　2階第4展示室
本年も第18回支部展は都美術館開催。展示会場は壁面･床スペースも同じ会場。出品規約は一般・会友は本展規約サイズ。出品者に2点余の出品も多数あり。小品サイズもバランスよく展示され、彫刻部も意欲ある企画で招待作家特別展示（5名）作品の支援を頂き、鑑賞空間も充実した会場となった。更に18回展からワークショップを企画し、①教育普及活動。②鑑賞者へのアプローチを実施し、来場者も2,257名あり盛況で充たされた支部展開催となりました。

●**ワークショップ**　4月20日
①教育普及活動
ワークショップでは、会員内の講師により版画の技法から「うつしてみよう」をテーマとして実施された。企画者（田中正秋氏）の他、支部会員、学芸大生の若い学生達からの多数の協力者を得て万全な準備を行った。一般の参加者は残念ながら子供の数は少なかったが、年配の参加者にも喜んで頂き、会場内は活気に溢れていた。

②鑑賞者へのアプローチ
ギャラリートークでは、平成26年度の招待作家の八木ヨシオ氏による「石彫シンポジュームの現況と作品について」をテーマにスライド映写を使ったプチ講演会として行った。プロジェクターに映された世界各国の石彫シンポジュームの映像と実践に則した軽妙なトークには、参加者は軽く50名は超え熱い空気に包まれた。次回以降もテーマを設けた、熱い企画を開催していく計画を持っている。

○出品状況
絵画44名･71点、版画2名・9点、彫刻16名・19点
○受賞者

東京支部一陽賞	三浦安針
東京支部特待賞	三浦高之、藤本美紗子
東京支部奨励賞	鈴木晶子、大谷桃子、一町田怜子、石川敏夫、加藤恵子、渡辺雅司(彫)
マルオカ賞	木村さかえ
東美賞	野沢宣夫

○授賞式・懇親会　4月18日
ライオンビアホール上野店

●**研究会**　4月18日　会場開催
午後展示会場にて一般・会友の出席者を主に講評会を行う。指導・助言は委員・会員の先生方が担当。合評の交流により出品者との親交を深め本展に向けての内容は深められた。終了後懇親会会場にて受賞者の表彰式と18回展開催を祝い合った。

■個展

●**田中正秋展**　5月1日～5月5日
東京プリンスホテル
2014ザ・美術骨董ショー　田中正秋特別展
（知佳子賛助出品）

●**第32回石井悦夫個展**　7月21日～7月27日
スパンアートギャラリー（銀座）

●**武田守弘展**　12月1日～12月13日
ＳＰＣ　ＧＡＬＬＥＲＹ（日本橋）

●**小松富士子DRAWING展**　12月8日～12月13日
ギャラリーセイコウドウ（銀座）

●**武田守弘展**　1月10日～1月25日
千年画廊ｃａｆｅ（西池袋）

●**田中正秋の私設美術館開設**
足柄下郡湯河原町宮上718-313

■**グループ展・その他**

●**現代抽象作家展－surprise 7－**
2月7日～2月19日　ギャラリー絵夢企画(新宿)
抽象作家24名による表現を視る
棚瀬修次

●**現代作家による「色布への挑戦」展**
3月3日～3月8日　小松富士子

●**日仏現代国際美術展**　4月1日～4月6日
東京都美術館　招待出品　棚瀬修次

●**女子美OG展in関西**　4月2日～4月6日
〈い・の・ち〉咲く　2014
原田の森ギャラリー　兵庫県立美術館
王子分館本館2階・東館1階　小松富士子

●**林紀一郎物書き半世紀を祝う仲間たち展**
4月7日～4月12日　ギャラリー暁（銀座）
棚瀬修次　（石川三知代、市橋哲夫、大久保綾子、鈴木力）

●**抽象作家による光と影展**　4月14日～4月26日
ギャラリーＧＫ.（銀座）　棚瀬修次

●**銀座井上画廊20周年記念展(銀座)**
6月2日～6月14日　高岡　徹

●**2014ART WAVE選抜展～世界に発信する～**
6月2日～6月7日　棚瀬修次

●**第4回現代作家による"墨の世界"展**
6月2日～6月7日　ギャラリー志門(銀座)
小松富士子

●**もういちど《おんなの絵のチカラ》展**
6月9日～6月14日　ギャラリー暁(銀座)
沢オイ

●**2014・綺羅星・展**　7月7日～7月12日
千駄木画廊(文京区)　石井悦夫、棚瀬修次

●**日本ガラス絵協会展**　7月14日～7月26日
galleru一枚の繪（銀座）
高岡徹　（石川三知代、川口文子、古河敦子）

●**柏市制施行60周年企画　柏市ゆかりの美術作家展**
8月7日～8月12日　柏高島屋T館地下2階催会場
棚瀬修次

●**おんな･おんな展**　8月25日～8月30日
ＳＴＡＧＥ-１（銀座）　棚瀬修次

●**「色が色と色を語る展」**　9月8日～9月13日
ぎゃらりーＧＫ(銀座)　棚瀬修次

●**日仏現代国際美術2014年選抜展**
9月23日～9月28日
大森ベルポートアトリウム（品川区）
招待出品　棚瀬修次

●**2014CAF・N展**　10月17日～10月22日
せんだいメディアテーク6階（仙台市）
小松富士子　（安田淳）

●**neo〈視点-12の個〉展**　10月20日～10月26日
ギャラリー暁(銀座)　棚瀬修次

●**錦秋展**　10月27日～11月1日
ギャラリーＫ（越谷市）
石井悦夫、棚瀬修次　（阿部知暁、鹿又保子）

●**開館20周年小島孝子と女子美術大学同窓展**
11月8日～12月14日　韮崎大村美術館（山梨県）
小松富士子　（坂口かほる、大久保綾子）

●**日本ガラス絵協会展**　1月5日～1月10日
井上画廊（銀座）
高岡徹　（石川三知代、川口文子、古河敦子）

●**新春現代作家小品展**　1月15日～1月24日
千駄木画廊(文京区)　石井悦夫、棚瀬修次

●**MONO・MONO展**　1月19日～1月24日
ギャラリー暁(銀座)　棚瀬修次

●**一麦会　第42回油彩作品展**
1月19日～1月26日
ギャラリーくぼた・４Ｆ（京橋）
加藤恵子、山田幸彦

●**現代抽象作家展－surprise 8－**
2月13日～2月22日　ギャラリー絵夢（新宿）
棚瀬修次

■**2015年支部活動**

●**第19回東京支部展**　4月25日～4月30日
東京都美術館（上野）　2階第4展示室
○日程
4月19日　搬入
24日　作品陳列作業
25日　開催初日
研究会・授賞式・懇親会
26日　ワークショップ・ギャラリートーク
（どちらも会場内）
30日　最終日
5月1日　搬出日
○ワークショップ
彫刻部企画「木のオブジェ　磨き」
講師　武田守弘（会員）担当者　彫刻部員
ケヤキ、楠、雑木などの材（端材、枝、流木）を素材とし、木材の造形を味わい、美しい磨きの技法を学習する。
・場所　展示会場3室
・担当者　小林、武田、安田、染矢、飯澤、滝川、三好
・作業　①作品例を示してから説明を加え鑑賞の時間を取る。②素材を選び、道具類を用意する。③担当者が指導し制作。④後片付、作品の写真撮影。
○ギャラリートーク
・国際的アニメーション作家　木下小夜子氏の講演会
・タイトル「アニメーション･生き生きアート」
アニメーション表現のいろいろをモニター画面でお見せしながら紹介し、お話しします。
・木下小夜子氏のプロフィール
東京生まれ。女子美術短期大学造形科卒業。虫プロダクションを経て、１９６９年㈱スタジオロータス入社。以来､国際的にアニメーション･メディアを基軸とした制作・開発・教育・振興等幅広い事業・活動を展開し、その仕事はアニメーションのみならず、ドキュメンタリーやフィクションを含む映像分野全般に及ぶ。
株式会社スタジオロータス代表取締役、国際アニメーションライブラリー（ＩＡＬ）主宰、大阪芸術大学客員教授、学校法人女子美術大学理事、広島市名誉市民。
・会場第2室に作品展示
・担当者　小松富士子、高岡徹、杉山　司、
小林達也　（吉村雅利、飯澤公夫、棚瀬修次）
○支部展係担当　支部長　棚瀬修次
・事務局　高岡徹、杉山司、小林達也
・企画　小松富士子、高岡徹、杉山司、小林達也
・庶務　田中正秋、田中知佳子、武田守弘
・会場　高岡徹、杉山司、小林達也
・受付　高岡徹、池田美津恵、永井泰子、安田操
・会計　吉村雅利、永井泰子
・記録　安田操、永井泰子、染矢義之
・懇親会幹事　小松富士子、小林達也、山田幸彦、吉村雅利、永井泰子、安田操
・司会進行　小松富士子、小林達也、山田幸彦

■**2016年支部活動**

●**第26回東京支部展**　4月24日～4月30日
東京都美術展（上野）
（小林達也、棚瀬修次　記）

関　西　支　部
kansai

（2014年2月～2015年1月）

■**展覧会**

●**第52回関西一陽展**　3月12日～17日
大阪市立美術館

＊関西独自の公募展として52回目を迎え、今年度も新たな出品者の広がりも見せた。支部会員、出品者にとって、この関西一陽展がこの1年間の制作活動及び秋の一陽展に向けたスタートとして位置づけられていると言える。
＊今回、初めて水彩画の部門を設置。(20号以上の作品）多数の力作の応募があった。
＊また、特別展示として楠森道剛会員が新作の大作を8点発表。一陽会の若いエネルギーを感じさせてくれた。
＊初日の合評会（ギャラリートーク）を実施し出品者が多数参加。支部会員による一人ひとりへのていねいな講評は励みになった。入選者は昨年より9名増。
＊初日夕刻より、授賞式と懇親会を開催。受賞者、初入選者からの抱負も聞かれ、有意義なひとときだった。
＊入場者も3000人近くを数え、盛況だった。

＜出品状況＞　支部会員　絵画 83点（51人）
　　彫刻　5点（4人）
　　入　選　絵画 83点（48人）
　　彫刻　3点（3人）
　　入場者　2884人

＜受賞者＞
関西一陽賞　横山瑞歩（絵）
大阪市長賞　高橋章子（〃）
大阪市教育委員長賞　後藤　杏（〃）
ホルベイン賞　橋本康子（〃）
奨　励　賞　檀野計藏　辻　マサオ　中川香代
　　藤田安臣　水谷浩三　（以上、絵）
　　寺元恵理子(彫)
新　人　賞　谷口紳一(絵)
会　友　賞　新村則一(〃)

●2014一陽会関西作家展　5月28日～6月1日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー
＊今回はこれまでより広いスペースの中で、絵画50号～100号及び彫刻の展示となった。(一人1点)

【絵画出品37名】
安孫子百合　榎本紀代文　大西正雄　大東明宏
奥村佳弘　尾島　守　川邉嘉章　楠森道剛
古曽成樹 小松正司　坂本真左子　佐野儀雄
墨川廣徳　隅田博美　高孝壬津子　たつみゆうこ
田渕幹夫 豊岡知世枝　中田絵里　永田啓子
新村則一　西浦まゆみ　西尾昭子　西谷のり子
西山眞理子　橋本紀夫　福井建彦　福家省造
藤本元美　古野恵美子　松村一夫　三阪雅彦
岬　和男　水谷喜美子 溝下美代子　三村恵理
山下潤志

【彫刻出品4名】
鍬田和見　津野充聡　前川芳輝　矢野　真

●創立60周年記念一陽展＜大阪展＞
10月21日～26日　大阪市立美術館地下展覧会室
＊絵画113点　版画6点　彫刻 10点の展示
巡回作品　絵画・版画45点　彫刻5点
関西支部会員（委員・会員・会友）作品
・絵画・版画　57点（53人）　彫刻5点（4人）
・関西の入選　絵画17点（15人）彫刻2点（2人）
＊入場者　2,919人
＊60周年を記念する巡回展にふさわしい、大作に応じた展示を行い、活気のある展覧会になった。「60周年記念友情出品」も含めた版画のコーナーは例年以上に充実した。
＊初日の懇親会に、細川委員、濵田委員が出席。会場でのギャラリートークと併せて、作品の講評などをいただいた。

＜受賞者（関西支部関係）＞
鈴木信太郎賞　福家省造(絵)
会員賞　廣門幸三(〃)
青麦賞　高橋章子(〃)
特待賞　檀野計藏(〃)
奨励賞　永田牧子　平田せつ子　藤田安臣(〃)
会員推挙　安孫子百合　たつみゆうこ(〃)
　　新村則一　西浦まゆみ(〃)
　　鍬田和見(彫)
会友推挙　田坂奈美子(絵)

■2014年度の支部行事
●事務局会議
＊支部会議のおよび展覧会の前に随時開催
・1月13日・3月19日（関西展陳列担当）・5月3日
・9月27日・10月20日（一陽展陳列担当）・11月15日
●支部会議
・5月11日　創立60周年記念一陽展に向けて発送作業・諸準備、関西一陽展反省など
・9月14日　一陽展出品作品の把握（下見）
・10月5日　一陽展＜大阪展＞諸準備、発送事務
・12月7日　決算総会（第49回関西一陽展発送事務）
・2015年1月18日　年度当初総会（年間計画、予算、第53回関西一陽展準備など）・新年会
●研修会
＜一陽展に向けての作品講評会＞
8月31日 エル・おおさか（台風のため2週間延期）
＊一般出品者、会友の作品12名の講評を行い、出品に向けての意欲が高まり、会友推挙や受賞、入選を果たすなどの結果を残すことができた。
＜スキュルチュール江坂で楽しむ彫刻と音楽＞
11月30日　大阪・アメニティ江坂
川邉会員の解説で、ロダンやブールデル、マイヨールなど、近代～現代彫刻の展示を鑑賞後、女性ボーカルとギターによるボサノヴァ曲を鑑賞。ゆったりとくつろいだひとときを過ごした。

■個展
●辻本光彦展＜特別出品・辻本久子＞
3月26日～4月5日　大阪市・梅田画廊
●榎本紀代文/水彩画展＜鶴見緑地公園四季を描く＞
6月1日～7日　大阪市・art galleryそら
●楠森道剛　ー燦san－
5月3日～5日　横浜市・Lei'OHANA
7月6日～12日　神戸市・ギャラリー　イーネ
●楠森道剛　翔 ～ Shou ～　11月22日～30日
芦屋市・AIR SPACE
●尾島 守展　7月24日～29日
神戸市・ギャラリー　ほりかわ
●古野恵美子展　9月23日～28日
京都市・ギャラリー　ヒルゲート
●古野恵美子展　11月18日～12月14日
京都市・ギャラリー　なかむら
●三阪雅彦展　2015年1月24日～31日
大阪・ギャラリー嶋ノ内

■ 2014年度のコンクール入賞・入選など
●第60回全関西美術展（大阪市立美術館・6月）
佐野儀雄（審査員）山下潤志（招待）
福家省造（第二席）　奥村佳弘
●2014京展　（京都市美術館・6月）　福家省造
●第10回 風の芸術展トリエンナーレまくらざき(巡回展)　9月17日～21日
川口市立アートギャラリー・アトリア
●ターナー　ゴールデン　コンペティション　(12月)
奥村佳弘

■美術館企画展など
●第22回川西市展（2月）
川西市中央公民館・文化会館
審査　奥村佳弘　藤本元美
●第29回日本の海洋画展
（全日本海員福祉センター主催）
（8月～　東京芸術劇場ほか）　古曽成樹
●守口市展（9月）　審査員　水谷喜美子

■支部会員・関西出品者の各種展覧会での作品発表
（企画展、グループ展など）
●アートフォーラム宇治美術展　3月6日～9日
宇治市文化センター　福家省造
●ガッテ リーベ(gatte libere)
気ままな猫たちの作品展
4月9日～15日　京都市・ぎゃらりぃ西利
安孫子百合　たつみゆうこ　巽富士子
西山眞理子　福井建彦
●第30回ハクの会作家展
11月11日～16日　京都府立文化芸術会館
1月7日～13日　ぎゃらりぃ西利
(30周年記念小品展)
奥村佳弘　福家省造　古川晶弘
●The 12th Salon DO Painting exhibition
11月28日～12月3日　守口文化センター
安孫子百合　高孝壬津子　田渕幹夫　檀野計藏
西山眞理子　水谷喜美子　水谷浩三　森本正義
●25人の絵画展　11月25日～30日
京都市・ギャラリーヒルゲート　古野恵美子

■2015年度　関西支部の主な予定
●第53回関西一陽展　3月10日～15日
大阪市立美術館
●2015一陽会関西作家展　7月23日～26日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー
●第61回一陽展＜大阪展＞　10月20日～10月25日
大阪市立美術館
●第54回関西一陽展　2016年3月9日～14日
大阪市立美術館
●研修会　一陽展出品作品の下見会
8月9日（日）　13:00～　エル・おおさか

■ 2015年度関西支部事務局
事　務　所　山下潤志
会　計　部　（支部会計）　藤本元美
　　（関西展会計）　川邉嘉章
　　（大阪展会計）　水谷喜美子
事　業　部　上田純子　大東明宏
　　墨川廣徳　福家省造
（会計監査・・・高孝壬津子　溝下美代子）

（相談役・・・・運営委員・委員）
＊2015年12月より、福家省造方に事務所移行予定
「支部会員」とは関西支部に所属する委員、会員、会友をさします。
（福家省造・山下潤志　記）

福井一陽会
FUKUI

■2014活動報告（２０１４年1月～２０１５年3月予定）
●福井一陽会新年会　1月12日
フェニックスホテル（養浩館）
●福井一陽会役員会　3月21日　弥吉
4月26日　まなべの館・鯖江市
11月2日　福井市体育館
2015年1月24日　おお田
●福井一陽会総会　3月30日　おお田
●作品研究会Ⅰ　6月14日
福井県立美術館　研修棟
●作品研修会Ⅱ　7月5日
福井県立美術館　研修棟
●第51回福井一陽展・合評会　7月30日～8月2日
まなべの里・鯖江市

■個展等
●北嶋三智子作品展　5月28日～6月1日
福井県立美術館　北嶋三智子
●松原照代水彩画展　7月1日～7月31日
松原照代
●宮川正市展　6月1日～6月30日
文化の館・鯖江市　宮川正市

■公募展
●第49回福井造形展　3月13日～3月16日
清水正男
●第27回市美展ふくい　5月16日～5月25 5日
福井市美術館

〈絵画造形部門〉
審査員・審査員出品　佐川文子、清水正男
無鑑査出品　内藤汎、畑秀仁
無鑑査推挙　西藤節子
市長賞　坪田美代子
市文化協会会長賞　郡谷美穂子
福井新聞社賞　孫崎公子
ＦＢＣ賞　加藤富子
ＦＭ福井賞　茨山芙美子
奨励賞　石田孝子、白崎榮子、松井優子
松原照代、渡辺妙子
一般入選　阪口美幸、竹内光一、武鎧恭子
宮越麗子

●**第31回福井サムホール展**　７月17日～７月27日
福井放送会館カルチャーセンター
〈絵画造形部門〉
佳作　渡辺妙子
入選　郡谷美穂子、坪田美代子、西藤節子
武鎧恭子

●**第60回一陽展**　10月１日～10月13日
国立美術館　出品者41名
委員推挙　清水正男
会員推挙　宮川正市、村田宏人
会友賞　内藤汎
会友推挙　谷口恵子、三谷滋子
奨励賞　加藤富子、郡谷美穂子、坂井和子
島田くみ子、坪田美代子、西藤節子
松井優子、森山秀樹
賞候補　竹内光一、中西美穂子、武鎧恭子
渡辺妙子
入選　13名

●**第65回福井県総合美術展**　９月４日～９月14日
福井県立美術館
〈絵画造形部門〉
審査員・審査員出品　佐川文子
無鑑査出品　岩永勝彦
県知事賞・無鑑査推挙　清水正男
第65回県美展賞　村田宏人
県立美術館館長賞　宮川正市
文化協議会長賞・会員推挙　内藤　汎
ＦＢＣ福井放送賞　西藤節子
福井テレビ賞　郡谷美穂子
一般入選　石田孝子、茨山芙美子、加藤富子
大森英節、坂井和子、櫻川幸代
白崎榮子、谷口恵子、坪田美代子
中西美恵子、牧田聖代、孫崎公子
増澤恵美子、松井優子、松原照代
丸山和子、村上禮子、渡辺妙子

●**第64回福井県勤労者美術展**
12月４日～12月７日　福井県立美術館
〈絵画造形部門〉
奨励賞　松井優子

■**グループ展他**

●**アトリエ羊庵グループ展**
2015年１月１日～12月31日
さくらギャラリー　台湾・台中市
北嶋三智子、児玉常聖、廣瀬冨美子、増澤恵美子
丸山和子、森山秀樹

●**第７回スプリングアート展**　２月12日～２月16日
福井県立美術館
佐川文子、茨山芙美子、加藤富子、坂井和子
阪口美幸、櫻川幸代、白崎榮子、谷口恵子
坪田美代子、中西美恵子、西藤節子、松井優子
丸山和子、宮越麗子、村上禮子、渡辺妙子

●**第49回福井造形展**　３月13日～３月16日
福井県立美術館
茨山芙美子、阪口美幸、櫻川幸代、白崎榮子
竹内光一、坪田美代子、牧田聖代、孫崎公子
松井優子

●**福井一陽展**　３月26日～３月30日　福井県立美術館
石田孝子、茨山芙美子、岩永勝彦、大森英節
北嶋三智子、郡谷美穂子、児玉常聖、坂井和子
阪口美幸、佐川文子、櫻川幸代、島田くみ子
清水正男、白崎榮子、竹内光一、谷口恵子
坪田美代子、内藤　汎、中西美恵子、西藤節子
畑　透仁、武鎧恭子、真木康至、牧田聖代
孫崎公子、増澤恵美子、松井優子、松原照代
丸山和子、三谷滋子、宮川正市、村上禮子
村田宏人、森山秀樹、横山純子、渡辺妙子

●**究展**　４月16日～４月20日　福井県立美術館
佐川文子

●**イーゼル会デッサン展**　４月24日～４月27日
福井県立美術館　松原照代

●**第11回グループ彩展**（水彩画）
４月３日～４月６日　福井県立美術館
佐川文子、松井優子

●**第８回笑夢の会**　５月29日～６月１日
福井県立美術館　児玉常聖、増澤恵美子
三谷滋子、大森英節、島田くみ子
丸山和子、宮川成美

●**第51回福井一陽展**　７月30日～８月３日
まなべの館・鯖江市
石田孝子、茨山芙美子、岩永勝彦、大森英節、
加藤富子、北嶋三智子、郡谷美穂子、児玉常聖、
坂井和子、阪口美幸、佐川文子、櫻川幸代、
島田くみ子、清水正男、白崎榮子、竹内光一、
谷口恵子、土田清香、坪田美代子、内藤汎、
中西美恵子、西藤節子、畑透仁、廣瀬冨美子、
武鎧恭子、真木康至、牧田聖代、孫崎公子、
増澤恵美子、松井優子、松原照代、丸山和子、
三谷滋子、宮川正市、宮川成美、宮越麗子、
村田宏人、森山秀樹、横山純子、渡辺妙子

●**べんべん会展**　５月７日～５月１１日
まなべの館・鯖江市
佐川文子、石田孝子、松原照代、横山純子

●**第６回吉川絵画クラブ展**　９月17日～21日
まなべの館・鯖江市　宮川正市

＊**I.H.I　OB展**　10月10日～10月17日
I.H.I横浜ギャラリー・横浜市　森山秀樹

●**I.H.I　OB展**　11月10日～10月17日
I.H.I東京本社ギャラリー・東京都　森山秀樹

●第39回鯖江美術協会展　10月17日～10月19日
響陽会館・鯖江市　宮川正市

●**福井市民文化祭**　11月３日～11月４日
福井市フェニックスプラザ　佐川文子、清水正男

●**第13回北国街道アート展**　11月１日～11月12日
鯖江市商店街　宮川正市

●**第55回鯖江市文協展**　11月14日～11月16日
響陽会館・鯖江市　宮川正市

●**第７回鯖江市美術展**　12月13日～12月17日
響陽会館・鯖江市　審査員出品　宮川正市

●**第50回記念福井造形展**
2015年３月26日～３月29日　福井県立美術館
清水正男、竹内光一、孫崎公子

●**第８回スプリングアート合同展**
2015年１月28日～２月１日　福井県立美術館
佐川文子、石田孝子、茨山芙美子、加藤富子、
坂井和子、児玉常聖、阪口美幸、櫻川幸代、
白崎榮子、谷口恵子、土田清香、坪田美代子、
中西美恵子、松井優子、丸山和子、宮越麗子、
村上禮子、渡辺妙子

（真木康至　記）

石　川　支　部
ISHIKAWA

■**活動報告**

●**総会**　４月13日
ＡＮＡホリディ・イン金沢スカイ

●**作品研究会**　７月６日　インプレス

●**作品研究会**　８月９日　市民工房うるわし
本部より細川尚運営委員を招聘し、作品講評会・懇親会を開催

●**作品研究会**　８月31日　市民工房うるわし

●**本展反省会**　11月２日　野々市市交流館

●**創立60周年記念一陽展金沢展**
12月４日～12月７日　石川県立美術館
本部より細川尚運営委員・濱田清運営委員・泉谷淑夫運営委員を招聘し、作品講評会・懇親会を開催

●**2015一陽会石川支部新春展**
１月20日～１月25日　金沢21世紀美術館

■**個展**

●**第70回記念現代美術展**　３月29日～４月15日
石川県立美術館
副理事長出品　大場吉美
委員出品　野中未知子、安田淳
会員・審査員出品　白井正浩
会員出品　柴山桂子、竹田明男、中本邦夫
西山恭申、益田恭行
美術文化特別賞　大鍬英治
最高賞　金田千佳
次賞　尾山隆夫
北國賞　中野久賀子、南ヒサコ
佳作賞　山崎綾乃、城戸清子
入選　飯田恭彦、芝西広美、阿部正子、卜部良子、
川村甚子、小島信子、小西明人、中谷美和子、
西村茂美、松井三枝子、吉野美策子、岩城和恵、
小松繁行、後出秀茂、巻砂紀恵

●**第18回日仏現代国際美術展**　４月
東京都美術館　常任委員出品　安田淳

●**第３回野々市市美術展**　８月29日～９月７日
野々市市情報交流館カメリア
理事・審査委員出品　竹田明男
理事出品　西山恭申、尾山隆夫
会員出品　卜部良子

●**日仏現代国際美術2014選抜展**　９月
大森ベルポート　常任委員出品　安田淳

●**七尾市美術展覧会**　10月31日～11月３日
石川県立七尾美術館　審査員出品　野中未知子
大賞　巻砂紀恵

●**日本芸術センター第７回絵画公募展**　12月～１月
神戸芸術センター・東京芸術センター
入選　安田　淳

■**グループ展**

●**能美市作家協会創立10周年記念展**
３月５日～３月12日　石川県立美術館
和泉　洸、小西明人、山崎綾乃、阿部正子

●**花と緑の　ののいち椿まつり**
３月22日～３月23日　野々市市文化会館フォルテ
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫

●**３人展**　４月23日～４月29日　市民工房うるわし
柴山桂子、西山恭申

●**第54回小松美術展**　５月10日～５月18日
サイエンスヒルズこまつ
益田恭行、安田淳

●**根上書道・絵画合同展**　５月31日～６月８日
根上学習センター
和泉洸、山崎綾乃、阿部正子

●**５人展**　６月４日～６月15日
うみっこらんど七塚　川村甚子

●**能美市作家協会Ｎ展**　６月14日～６月22日
辰口町博物館
和泉　洸、小西明人、山崎綾乃、阿部正子、
田方　勇

●**古九谷修古祭現代陶芸展**　６月21日～６月22日
山中　浜谷信彦

●**第10回白山会南加賀造形美術展**
６月21日～６月25日
小松市民ギャラリールフレ
和泉　洸、小西明人、益田恭行、安田　淳、
山崎綾乃

●**能美市絵画協会展**　６月21日～６月29日
根上学習センター
和泉　洸、小西明人、山崎綾乃、阿部正子、
田方　勇

●**Ｏ．ＫＡ．ＫＩ展**　６月27日～７月２日
グリーンアーツギャラリー
尾山隆夫、金田千佳、城戸清子

●**結城20回記念七尾美術作家協会展**
７月９日～７月13日　石川県七尾美術館
野中未知子

●**第10回能美市美術作家協会展**
７月19日～７月27日　根上学習センター
和泉　洸、小西明人、山崎綾乃、阿部正子、
田方　勇

●**第24回津幡美術好友会展**　7月29日～8月3日
津幡町文化会館シグナス
飯田恭彦、川村甚子、岩城和恵
●**根上絵画クラブ作品展**　8月27日～9月8日
タントアートギャラリー
和泉　洸、山崎綾乃、阿部正子
●**石川の美術　ハイファイン・ジクレ版画展**
9月～2月　ひろた美術画廊・ガレリアポンテ・うつのみや柿木畠本店・宮本三郎美術館ギャラリー・香林坊大和アートサロン
安田　淳
●**2014ＣＡＦ．Ｎ展inせんだい**　10月
せんだいメディアテーク
安田　淳
●**寺井絵画クラブ二人展**　10月1日～10月12日
寺井地区公民館
田方　勇
●**インスタレーション４人展**
10月1日～10月12日　石川国際交流サロン
大場吉美
●航空祭2014　10月11日～10月12日
日本航空学園
吉野美策子
●**地区文化祭展**　10月18日～10月19日
井上コミュニティプラザ
川村甚子
●**此花文化祭**　10月24日～10月26日
此花町民会館
小島信子
●**第60回記念津幡町文化展覧会**
11月1日～11月3日　津幡町文化会館シグナス
飯田恭彦、川村甚子、岩城和恵
●**能美市文化祭**　11月1日～11月3日
根上文化会館タント
小西明人、阿部正子、田方　勇
●**野々市まなびフェスタ2014**
11月2日～11月3日
卜部良子
●**第7回赤とんぼ展**　11月6日～11月9日
ラポルトすず
吉野美策子
●**第3回野々市市美術文化協会展**
11月9日～11月15日
野々市市情報交流館カメリア
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫、卜部良子
●**第10回記念津幡美術作家協会展**
11月12日～11月16日　津幡町文化会館シグナス
飯田恭彦、川村甚子、松井三枝子
●**能美市作家協会N展**　11月20日～11月27日
能美市学習センター
和泉　洸、小西明人、山崎綾乃、阿部正子、田方　勇
●**第20回七尾美術作家協会歳末チャリティー展**
11月21日～11月23日　フォーラム七尾
野中未知子
●**ざぶん展**　11月28日～11月30日
石川県立美術館広坂別館
柴山桂子
●**第54回歳末美術展**　11月27日～12月2日
香林坊大和
大場吉美、野中未知子、飯田恭彦、柴山桂子、白井正浩、竹田明男、中野久賀子、中本邦夫、西山恭申、益田恭行、安田淳、山崎綾乃、阿部正子、尾山隆夫、城戸清子、川村甚子、南ヒサコ
●**能美市歳末助け合い入札展**
12月5日～12月7日　寺井地区公民館
小西明人、阿部正子、田方　勇
●**BJ 8「美術準備室」展サテライトin金沢from福井**
12月9日～12月14日　金沢21世紀美術館
大鍬英治、安田淳
●**叢生会かきぞめ展**　1月6日～1月18日
能美市公民館
和泉　洸
●**根上絵画クラブ新春展**　2月5日～2月17日
アートギャラリータント
和泉洸、山崎綾乃、阿部正子
●**第6回はてなし会展**　2月24日～3月1日
京都府立文化芸術会館
中谷美和子

■**その他**
●**現代美術と画家たち**　小松市立博物館収蔵
「夏夢～なつにみしゆめ～」　12月～3月
小松市立宮本三郎美術館
安田　淳
（白井正浩　記）

富山一陽会
TOYAMA

■**活動報告**
●**富山市美術作家連合展**　2月
富山市民プラザアトリウム
萩中幸雄、桝田律子、古田恵子、新井哲夫、姫路廣司、菊　昌隆、藤木良一、富岡博子
●**7個展**　2月　富山県民会館（地下展示場）
桝田律子、古田恵子
●**生涯学習フェスティバル**　2月　婦中ふれあい館
荒井哲夫
●**砺波市美術協会展**　3月　砺波市美術館
山本文郎
●**洋画2014年in庄川展**　4月　庄川美術館
萩中幸雄、山本文郎
●**新萩の会作品展**　4月　富山市民プラザ
萩中幸雄、菊　昌隆、田村昭子、山田明子
●**富山一陽会春季展**　4月　富山市民プラザ
大作一人1点　24名出品
●**公募団体ベストセレクション美術2014**　5月
東京都美術館
古田恵子
●**滑川市美術連合展**　5月　滑川市立博物館
笹山満義
●**東秩父版画フォーラム**　5月　東秩父村和紙の里
長澤一美
●**第69回富山県美術展**　6月　富山県立近代美術館
審査員　萩中幸雄
無鑑査　荒井哲夫
県展大賞　高橋久仁子
入選　桝田律子、長澤一美、古田恵子、姫路廣司、武田清子、池田国男、藤木良一、梶原信男、寺脇圭子、富岡博子
●**なないろ流星展**　6月　北日本新聞社ギャラリー
桝田律子
●**となみ野美術展**　6月　砺波市美術館
山本文郎
●**小杉采芳会展**　6月　アイザック小杉文化ホール
梶原信男、竹内隆男
●**富山市工芸美術作家協会展**　6月
富山市民プラザ
富岡博子
●**第60回一陽展事前研修会**　7月
富山市民プラザ
大作　24名出品
講評　小島鐵男先生
●**野萩の会展**　7月　富山市民プラザ
萩中幸雄、姫路廣司、菊昌隆、藤木良一、寺脇圭子、竹森由希子
●**富山県洋画連盟新川地区会員展**　7月
立山町元気交流ステーション
笹山満義
●**滑川市洋画連盟展**　7月　滑川市立博物館
笹山満義
●**七夕会作品展**　7月　アートギャラリー栄
菊　昌隆
●**上市美術会会員展**　7月　西田美術館
池田国男
●**富山市洋画作家連盟展（小品展）**　7月
アートギャラリー栄
萩中幸雄、古田恵子、菊　昌隆
●**菊昌隆展**　8月　ギャラリー夏
●**上市町美術展**　8月　北アルプス文化センター
審査員　萩中幸雄
町展大賞　池田国男
●**氷見市美術展**　9月　氷見市民会館
招待　狭間潤子、長澤一美
●**富山県洋画連盟富山地区小品展**　9月
八尾町西町コミュニティセンター
萩中幸雄、桝田律子、古田恵子
●**小杉采芳会小品美術展**　9月　小杉文化ホール
梶原信男、竹内隆男
●**第60回一陽展**　10月　国立新美術館
委員推挙　山本文郎
会員推挙　狭間潤子、長澤一美、古田恵子
会友賞　荒井哲夫
会友推挙　姫路廣司、池田国男
奨励賞　高橋久仁子、竹森由希子、根建カズヨ
●**砺波市展**　10月　砺波市美術館
審査員出品　山本文郎
●**小矢部市善意作品頒布会**　10月
小矢部市総合福祉センター
狭間潤子
●**朝日町展**　10月　アゼリアホール
審査員出品　萩中幸雄
●**セブンクロスツー展**　10月　高岡市立美術館
笹山満義
●**富山県洋画連盟砺波地区会員展**
北日本新聞社砺波支社
山本文郎
●**富山市美術展**　11月
富山市民プラザ・アートギャラリー
審査員　古田恵子
招待出品　萩中幸雄、桝田律子
優秀賞　荒井哲夫
奨励賞　姫路廣司
入選　菊　昌隆
●**富山県美術連合展**　11月　富山県立近代美術館
萩中幸雄、山本文郎、桝田律子、笹山満義、長澤一美、丸山敦子、荒井哲夫、古田恵子
●**越中アートフェスタ**　11月　富山県立近代美術館
審査員　萩中幸雄
奨励賞　長澤一美、荒井哲夫
佳作　池田国男
入選　菊　昌隆、藤木良一、竹内隆男
●**アミカル展**　11月　アートサロン・コスモス
萩中幸雄
●**富山市民大学文化祭**　11月　富山市民プラザ
萩中幸雄、菊昌隆、藤木良一
●**版画2014年in庄川展**　11月　庄川美術館
狭間潤子、長澤一美
●**日本版画会展**　11月　東京都立美術館
長澤一美
●**志賀町を描く美術展**　11月　富来活性センター
特別賞　長澤一美
●**葛の会洋画展**　11月
高岡市美術館市民ギャラリー
竹内隆男
●**ねいの会作品展**　12月　婦中ふれあい館
荒井哲夫、竹内隆男
●**富山駅北地下道市民ギャラリー展**　12月
駅北市民ギャラリー
菊　昌隆、藤木良一、寺脇圭子、竹森由希子
●**七夕会作品展**　12月　北陸銀行本店ロビー
菊　昌隆
●**竹内隆男絵画展**　12月　北陸銀行小杉支店
●**北銀ミレー美術館展**　2015年1月　萩中幸雄
（篠山満義　記）

長野支部
NAGANO

■**支部活動**
●**総会準備会**　1月25日　太平庵
●**総会**　2月22日　ホテル信濃路
●**第47回一陽会長野展準備会**　7月5日　太平庵
●**第47回一陽会長野展**　7月16日～7月21日
松本市美術館
招待作家2点　絵画36点・彫刻2点
●**作品研究会**　7月15日　午後1時～4時
講師　小島鐵男委員　（31名参加）
●**創立60周年記念一陽展**　国立新美術館
会員推挙　丸山光子、依田千恵子、米山渉
会友推挙　峯村欣弘、宮川元宏、横山優子
特待賞　横山優子
■**公募展**
●**第65回北信美術展**　5月20日～5月25日
ビッグハット　22名出品
●**第67回中信美術展**　6月28日～7月6日

松本市美術館
やまぐちかずお、林政人
●第66回県展　11月16日～11月30日
上田市美術館
碓田順彦（無鑑査）、北島英巳、田中渉、林政人、名香山直子、本多和子、松川勝男、丸山光子、横山優子、春原功（彫刻）
■個人・グループ活動他
●小林一夫展　3月13日～3月18日
Zaroff（東京）
●ベストコレクション2014　5月4日～5月27日
東京都美術館
小林一夫
●垣内カツアキ新作展　3月20日～6月6日
●垣内カツアキ　スケッチ・デッサン淡彩展
8月31日～9月26日
●垣内カツアキ　秋の絵　冬の絵展
9月28日～11月30日
以上　伊那アルプス美術館（箕輪町）
●アート・エム絵画展　4月22日～4月27日
ギャラリー82
松川勝男主宰　11名
●第11回地域現代作家代表作展
4月23日～5月4日　松本市美術館
やまぐちかずお、林政人
●島田広之の絵画室　2014　5月5日～5月18日
千曲市民ギャラリー
●如月会展　6月14日～6月16日
サンスペース白木屋（辰野町）　垣内カツアキ
●油絵地元作家六人展　6月26日～7月6日
ニシザワギャラリー（駒ヶ根市）　垣内カツアキ
●垣内カツアキ画道60年記念展
9月18日～9月29日
ニシザワギャラリー（駒ヶ根市）
●名香山直子展　10月24日～11月24日
アート黒姫（信濃町）
●信州コンテンポラリアート展
10月29日～11月3日　松本市美術館
林政人
（林政人　記）

中　部　支　部
CHUBU

■活動報告　2014年4月～2015年3月
●第51回中部一陽展　5月13日～5月18日
愛知県美術館ギャラリー8F
（絵54・彫刻3点、合計57点）
〈受賞者（絵画）（彫刻は該当者なし）
中部一陽賞　鈴木啓子
中日賞　服部秀勝
東海テレビ放送賞　岡本勇夫
奨励賞　高橋昭子、横山満津子、今井田高江
新人賞　小藪達也
●夏期総会　7月12日　名古屋市芸術創造センター
●第41回岐阜一陽展　7月1日～7月6日
岐阜県美術館
彫刻　今井田一己、小島健司、森島昭道
絵画　今井田高江、伊藤知佐子、今井嘉子、大橋壯久、小畑恭子、河井一郎、木村満幸、久保田正剛、小藪達也、後藤泰洋、志知佳子、高森和子、常川雅子、西脇義照、野田美子、山田晃平、横山満津子
●第60回一陽展　10月1日～10月13日
国立新美術館
〈受賞者・初入選者〉
絵画　会員推挙　高森和子
奨励賞　岡本勇夫
初入選　伊藤知佐子
彫刻　スカラベ賞　三輪乙彦
●第15回陽友会展　10月21日～10月26日
名古屋市民ギャラリー栄
伊藤知佐子、今井嘉子、大橋壯久、岡本勇夫、片野泰人、志知佳子、鈴木啓子、高橋昭子、高森和子、常川雅子、野田美子、橋爪　玲、服部秀勝、山田晃平
●新年総会　2015年1月24日　囲み屋
●中部展　打ち合わせ会　3月8日
名古屋市芸術創造センター
■個人活動
◇2014年3月
●第9回大王大賞展
三重テレビ賞　岡本勇夫
志摩観光協会秀作　片野泰人、高橋昭子
◇4月
●第67回春艸会展　愛知県美術館　中嶋美瑳子
●ギャラリー葵　6周年記念展　高森和子
◇5月
●蒲郡市文協展　蒲郡市博物館
小田勝、片野泰人、岡本勇夫
●大垣美術家協会展　大垣市文化会館
久保田正剛
●尾張旭市美術展　尾張旭市文化会館
加藤美千代
◇6月
●一宮総合美術展　一宮文化センター
高森和子、木村満幸
●色のチカラ・形のチカラ　コレクション展
大垣スイトピアセンター
森島昭道
●第4回「水母の会」絵画展
古民家カフェもくせいの花（豊川市）
伊藤裕一、片野泰人、岡本勇夫、高橋昭子
◇7月
●養老町美術協会展　養老町ギャラリー
久保田正剛
●養老教職員作品展　養老町ギャラリー
久保田正剛
●西濃教職員作品展　大垣市文化会館
久保田正剛
◇8月
●養老教職員研修　福井県
久保田正剛、西脇義照
◇9月
●2014西濃美術展　大垣市文化会館　久保田正剛
●大垣市アートフルタウンフェアー参加
大垣市商工会　久保田正剛
◇10月
●大垣市民展　大垣市文化会館　久保田正剛

●養老町芸術展　養老町ギャラリー
久保田正剛
●第5回「水母の会」　わたなべ珈琲店（豊川市）
伊藤裕一、片野泰人、岡本勇夫、高橋昭子
●羽島市美術展　羽島市文化センター
（審）　今井田一己、小畑恭子
●岐阜市美術展　岐阜市文化センター
（審）　今井田一己、小畑恭子
◇11月
●カラフル+モノクローム展　ラ・メール
下保隆義
●春艸会秋季展　セントラル・アートギャラリー
中嶋美瑳子
●一宮市美術展　一宮文化センター　高森和子
●蒲郡文化展　蒲郡市博物館
小田　勝、伊藤裕一、片野泰人、岡本勇夫
●対談　11月26日
羽島市かみなり村あろはホール
「画家藤田嗣治と戦争画」　戦争と美術の関わり合いを考える
対談者　小畑恭子
◇12月
●第72回一宮市現代作家美術秀選展
一宮市博物館　高森和子
●チャリティ
○岐阜新聞　岐阜マーサ21
久保田正剛、河井一郎
○岐阜新聞西濃総局　イオン大垣　久保田正剛
○養老美協　トミダヤ　久保田正剛
○毎日文化センター　文化センターギャラリー
久保田正剛、中嶋美瑳子
○朝日新聞　丸栄百貨店　中嶋美瑳子
◇2015年1月
●第8回8人の女流画家展
ノリタケの森ギャラリー　加藤美千代
●水彩協会展　愛知県美術館ギャラリー
（審）　宿澤浩
◇2月
●羽島市美術協会展　羽島文化センター
今井田一己、小畑恭子、今井田高江
◇3月
●一宮市美術作家協会展　一宮市博物館
高森和子、木村満義
●グループYOU・友　三岸節子記念美術館
高森和子、野田美子、木村満義
（小畑恭子・野田美子　記）

神　奈　川　支　部
KANAGAWA

■活動報告
●研修会　6月8日
かながわ市民サポートセンター
●第18回神奈川一陽展　8月12日～8月17日
横浜市民ギャラリーあざみ野
●第60回記念一陽展
受賞者
会友賞　菅原礼子
特待賞、会友推挙　村田忠夫
奨励賞（初出品）　後藤静子
賞候補　内田綾子
●第19回神奈川一陽展　会場説明及び忘年会
12月7日
■個人及びグループ活動
●国際野外の表現展
2013年12月1日～2014年11月末日
東京電気大学鳩山キャンパス　衛守和佳子
●GANGA-JAL　3月21日～4月29日
インド、パナラシ。ラム・チャプター彫刻センター
衛守和佳子
●林紀一郎　物書き半世紀を祝う祝う仲間たち展
4月7日～4月12日　ギャラリー暁　塩川慧子
●三原路子絵画展　5月5日～5月10日
ギャラリー55　三原路子
●mey12　5月12日～5月17日　シロタ画廊
緒方かおる
●第9回ハマ展あざみ野会員会友展
5月19日～5月25日
横浜市民ギャラリーあざみ野　村杉哲子
●2014、NPO法人ARTWAVE選抜展
6月2日～6月7日　ギャラリー暁　後藤静子
●茅ヶ崎美術家協会展　6月17日～7月12日
茅ヶ崎市美術館　内山靖子、横須賀康子
●女流画家協会展　6月29日～7月6日
上野都美術館　塩川慧子、後藤静子
●富川・川崎-日韓美術交流展
7月11日～7月16日
韓国　富川市役所駅ギャラリー　横須賀康子
●詩画展　7月14日～7月20日　画廊　楽
村杉哲子
●第4回女流吉象展　7月21日～7月27日
銀座ギャラリー　ムサシ　塩川慧子
●NEKOISM　8月21日～8月24日
gallery〈やさしい予感〉
大賞受賞　緒方かおる
●第66回鎌倉市展　9月26日～10月1日
鎌倉芸術館ギャラリー　横須賀康子
●2014 ART WAVE 日韓交流展
10月13日～10月18日
GINZA ギャラリーアートスペース　後藤静子
●女流画家協会　相模原展　10月31日～11月11日
相模原市民ギャラリー　塩川慧子
●第1回おかがみ　11月2日～11月9日
和光大学パレストラ4階　神山茂樹
●第70回ハマ展　11月4日～11月16日
横浜市民ギャラリー
青山孟夫、緒方かおる、村杉哲子
●高瀬和夫個展　11月26日～12月2日
シルクセンター地下ギャラリー　高瀬和夫
●第54回神奈川県女流展　12月3日～12月8日
横浜市民ギャラリー　久留宮和子、後藤静子
●衛守和佳子　椿　陶芸展
2015年1月13日～1月17日　ギャラリー絵舞遊
衛守和佳子
●2015新春絵馬展　1月14日～1月25日
画廊　楽　村杉哲子
●2015PARIS NEKO COLLECTION
2月21日～2月27日

@DISCOVER JAPAN PARIS
緒方かおる
●メールアート　セッション展
3月5日～3月10日　ギャラリー　キャメルK
●第25回記念虹の会展　3月10日～3月15日
アートガーデンかわさき　緒方かおる
（横須賀康子　記）

千葉支部
CHIBA

■支部活動
●幹事会、総会･新年会、同人・準同人展打ち合わせ
2月2日　ホテルポートプラザちば
●千葉一陽会同人・準同人展　3月13日
画廊ジュライ
同人13名、準同人4名
●準備会（第37回千葉一陽展について）
3月23日　勤労市民プラザ
●第37回千葉一陽展　5月27日
千葉市美術館市民ギャラリー
●第37回千葉一陽展研修会・ギャラリートーク、授賞式・懇親会　5月31日
ホテルポートプラザちば
●第60回一陽展に向けての資料仕分け（会員･会友）
8月24日　勤労市民プラザ2F
●幹事会　11月28日　レストランほてい家
■個展
●永倉一徳展　2月27日　画廊ジュライ
●里地芳美展　4月6日
GAS MUSEUMがす資料館
●棚倉英雄展　4月14日　木更津わたくし美術館
●河野緋紗子展　4月24日　画廊ジュライ
●小嶋英子展　4月25日　ギャラリー睦
●宇梶陽子展　11月18日　ギャラリー金巴里
■グループ展・その他
●日本ガラス絵協会展　1月6日　井上画廊
石川三知代会員、古賀敦子会員、川口文子会員
●洋画グループ犀展　1月7日　千葉信用金庫
里地芳美会友
●洋画グループ犀展　1月22日　木更津中央公民館
里地芳美会友
●第6回福島県在京美術家協会展　1月20日
ギャラリー白百合
濱田清運営委員、山口陽子会員
●今日は明日の表現展　1月27日　ぎゃらりー暁
川口文子
●第3回彩友会展　2月4日　千葉市青葉の森公園
永倉一徳会員　主宰
●第23回彩の會展　2月5日
イオン木更津店グリーンホール
細川尚運営委員　主宰
●しず美術サークル展　2月18日　臼井公民館
鈴木利久会員
●春展八鶴の会　3月4日
DIC川村記念美術館ギャラリー
川上弘子同人
●ウィンドウギャラリー展　3月4日
三井ガーデンホテル
細川尚運営委員　主宰
●暁展V　3月31日　ギャラリー暁
大北節子会員、大久保綾子会員
●林紀一郎物書き半世紀を祝う仲間たち展
4月7日　ギャラリー暁
石川三知代会員、大久保綾子会員
●第2回個の屹立展　4月14日　ギャラリー暁
大久保綾子会員
●発展　4月17日　画廊ジュライ
福田利明委員
●ガラス絵コクリコ会小品展　4月22日
ギャラリー金巴里
石川三知代会員　主宰
●皐月展　5月13日　ギャラリー金巴里
小沼由理子会友　主宰
●みなづき展　6月10日　ギャラリー金巴里
細川尚運営委員　主宰
●千葉市美術協会特別展秀作2014　6月17日
千葉市美術館市民ギャラリー
川口文子会員
●県展代表作家展in成田　6月21日
成田山書道美術館
小島鐵男運営委員、濱田清運営委員、細川尚運営委員、福田利明委員、田沼和夫委員
●野田美術会小品展　6月24日
興風会館地下ギャラリー
鹿又保子会員
●アトリエ香焼展　7月5日　プチ・フーユ
香焼直美会友　主宰
●日本がラス絵協会展　7月14日
ギャラリー　一枚の繪
石川三知代会員、川口文子会員、古賀敦子会員
●第6回ante展　7月14日　salon de G
大北節子会員
●第47回一陽会長野展　7月16日　松本市美術館
小島鐵男運営委員　招待
●小島孝子と女子美大同窓展　7月26日　北アルプス展望美術館
大久保綾子会員
●八鶴の会　8月1日　サンビアギャラリー
川上弘子同人
●G・グローバー展　8月25日　茂原市美術館
川上弘子同人
●錦秋展　10月27日　ギャラリーK
鹿又保子会員
●金巴里展　1部　10月28日　ギャラリー金巴里
小沼由理子会友　主宰
●金巴里展　2部　11月4日　ギャラリー金巴里
細川尚運営委員　主宰
●第22回究美会展　11月5日
千葉市美術館市民ギャラリー
細川尚運営委員　主宰
●Water Color千葉　11月7日
ART SPOTまつど
鹿又保子会員
●しず美術サークル展　11月11日　臼井公民館
鈴木利久会員
●November展　11月17日　ぎゃらりー暁
大北節子会員
●洋画小品展フエーズ30　11月20日
画廊ジュライ
田沼和夫委員、福田利明委員
●楽画会展　11月22日　COMOSALON
鈴木利久会員
●第41回朝の会展　11月22日　銀座洋協ホール
川上弘子会員
●野田美術会展　12月3日
さわやか千葉県民プラザ
鹿又保子会員
●日本ガラス絵協会展　2015年1月5日　井上画廊
石川三知代会員、川口文子会員、古賀敦子会員
●MOVE展in Shanghai　1月10日
上海風月舎画廊
大北節子会員
●第7回福島在京美術家協会展　1月12日
ギャラリー白百合
濱田清運営委員、川口陽子会員
●2015暁展　3月23日　ギャラリー暁
大北節子会員
■コンクール・その他
●千葉市展　3月8日
千葉市美術館市民ギャラリー
会員推挙　小澤賢侑会友、須藤建夫同人
●茂原市民美術展　6月3日　茂原市美術館
市長賞　川上弘子同人
●第11回猫展　6月29日　松山庭園美術館
那須高原美術館賞　山本映子会員
●日本の自然を描く展　8月11日　上野の森美術館
入選　鈴木利久会員
●猫たちの遊々展2014　9月15日
ほくさい美術館
ほくさい美術館最優秀賞　山本映子会員
（田沼和夫　記）

茨城一陽会
IBARAKI

■活動報告
●第73回水彩連盟展　4月2日～4月14日
国立新美術館
阿部　進
●県西水彩画展　5月24日～6月1日
古河市古河街角美術館
阿部　進（出品者8名）
●森に棲む－北沢努展　6月3日～6月8日
水戸市ギャラリーしえる
北沢　努
●第43回連合美術展　6月8日～6月15日
水戸市県民文化センター
阿部　進、雨谷達夫、磯山芳男、飯田政子、宇留野信章、海老根美奈子、小川京子、小宅淑子、小田部実、北沢　努、小坂和美、篠原洋、鈴木しのぶ、舘野　弘、中村義孝、樋口美千代、深谷直之、村山悦子、六崎敏光、森山元國
●森に棲む生き物たち-北沢努、戸田和子展
7月3日～7月12日　渋谷区初台　画廊zaroff
北沢　努
●第42回MITO彫刻展　7月4日～7月9日
水戸市アートセンタータキタ
海老根美奈子、小宅淑子、北沢　努、篠原　洋、深谷直之、六崎敏光、村山悦子、森山元國
●MOKSHA2014　8月19日～8月24日
水戸市ギャラリーしえる
北沢　努
●第12回大分アジア彫刻展　10月11日～11月16日
大分県豊後大野市朝地町　朝倉文夫記念文化ホール
深谷直之
●第14回アートグループ絵画展
10月20日～10月26日　古河市古河街角美術館
阿部　進（出品者22名）
●第43回グループSABO展　10月24日～10月29日
水戸市アートセンタータキタ
海老根美奈子（出品者4名）
●第13回彩の會展　11月16日～11月22日
茨城県筑西市ギャラリーオゾン
阿部　進（出品者12名）
●YEAR－END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES　12月8日～12月20日
東京都銀座ギャラリーせいほう
中村義孝、深谷直之
●日立市展受賞作品展　12月16日～12月21日
日立市角記念市民センター
北沢　努
●第24回チャリティーちょっと小さな展覧会
12月16日～12月30日
ひたちなか市ギャラリーサザ
六崎敏光、北沢　努
●作家とアトリエ展
12月20日～12月27日、～2015年2月15日
茨城県近代美術館
六崎敏光
●第4回古河の絵画美術展　1月24日～3月8日
古河市古河街角美術館
阿部　進
●アートロード展　2月8日～2月14日
東海ステーションギャラリー
北沢　努
●第22回土なかま彫塑展　3月1日～3月7日
東海ステーションギャラリー
北沢　努、村山悦子、谷津喜美代、鈴木しのぶ、葛迫大祐
●春の夢展　3月8日～3月17日
渋谷区初台　画廊zaroff　小川京子
（森山元國　記）

新潟一陽会
NIIGATA

■活動状況
●第18回越後湯沢全国童画展（佳作賞）
3月1日～3月10日　湯沢町公民館
長谷川清晴
●林紀一郎物書き半世紀を祝う仲間たち展（招待出品）
4月7日～4月12日　ギャラリー暁
鈴木　力
●阿部克志旅のスケッチ展　4月7日～4月17日

北越銀行亀田支店ギャラリー　阿部克志
●第６回阿賀野水彩の会　４月25日～４月29日
阿賀野市水原公民館　駒村励吾
●高橋洋子銅版画展－異形たちの夜Ⅱ－
４月26日～５月11日
カールベンクス古民家ギャラリー　高橋洋子
●父子展　５月17日～５月21日　山内堂　千野清和
●新潟一陽会展　５月27日～６月１日
新潟県民会館　新潟会員
●水原郷絵を描く会第51会展　６月27日～６月29日
阿賀野市水原公民館　駒村励吾
●日本美術家連盟信越地区会員展
７月１日～７月６日　新潟県民会館
市橋哲夫、北村五十一、木村保夫、桑原　收、千野清和、長谷川清晴、山本安雄
●市橋哲夫展－海の宙シリーズ－
７月１日～７月６日　アートギャラリー万代島
市橋哲夫
●雪梁舎風の会　７月５日～８月３日
雪梁舎美術館　鈴木　力、長谷川清晴
●第47回南魚美術展　７月12日～７月15日
南魚沼市デスポート　桑原　收、山本安雄
●市橋哲夫とその仲間たち展　７月16日～７月21日
西新潟市民会館
若木弘美、阿部克志、佐藤幸雄、高山久子、市橋哲夫
●戦争と平和展　８月14日～８月20日
長岡美術センター　木村保夫
●グループ漂展－イメージの狩人たち－
９月２９日～１０月４日　銀座・画廊るたん
市橋哲夫　高橋洋子
●第24回南魚美術協会展　10月11日～10月13日
南魚沼市Ｂ＆Ｇ体育館　桑原　收、山本安雄
●第46回新潟市美術協会展　10月15日～10月19日
新潟市美術館　阿部克志、佐藤幸雄、高山久子
●新潟県「芸展」　11月１日～11月７日
新潟県民会館　木村保夫、長谷川清晴
●第５回青土会展（４人展）　11月11日～11月16日
長岡市ギャラリー創　山本安雄
●高橋洋子銅版画展－刻を楽しむ－
11月18日～11月30日　ギャラリーあらき
高橋洋子
●高橋洋子銅版画展－幻－　11月22日～11月30日
游文舎　高橋洋子
●８人の蔵書票と小品展－木口木版・銅版画－
12月8日～12月16日　ギャラリーやまぼうし
市橋哲夫

（北村五十一　記）

高知一陽会
KOUCHI

■活動の経過
●勉強会　７月７日
●一陽会高知'14展　７月８日～７月13日
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
●定例会　1月18日
■活動の総括
●グループ展（一陽会高知'14展）
26回目のグループ展。高知一陽会メンバー5名が、秋の本展出品予定作品も含め各２点あるいは３点を持ち寄り、陳列展示した
●勉強会
上記グループ展陳列終了後、展覧会場にて十分な時間の中で各出品作品について率直な指摘と意見の交換を行った。
■個人的活動
●慕南展　4月29日～5月4日
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
安藤義孝、末田光一、平田慎一
●第12回"グループ彩"作品展　6月17日～6月22日
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
大黒郁代
●第68回高知県美術展覧会　10月10日～10月26日
高知県立美術館（高知市）
褒状　安藤義孝
無鑑査　大黒郁代、末田光一
入選　寺尾立子、平田慎一
●表現の現在展Ⅶ（赤津侃企画展）
10月25日～10月30日　ギャラリー風（東京･銀座）
平田慎一
●平田慎一作品展　10月27日～11月1日　画廊るたん（東京・銀座）
●香美市立美術館開館20周年記念展
後期「ひろがる表現の世界」
11月1日～12月14日
香美市立美術館（高知県香美市）
末田光一
●中土佐町立美術館大賞展2014
12月13日～1月18日
中土佐町立美術館（高知県中土佐町）
入選　平田慎一
（末田光一　記）

青森一陽会
AOMORI

◇6月
●打ち合わせ会（青森市）
今年度の展覧会等について
◇7月
●第36回青森一陽展（青森市）
青森市民美術展示館２階
80号以上の大作22 2点展示
◇8月

●第62回青森美術会平和展（青森市）
青森市民美術展示館１階～４階
出品者　笹森眞紀子、対馬玲子、対馬久世喜
◇10月
●60周年記念一陽展（東京）
国立新美術館
会友推挙　奥田君子、北川三千枝
●第26回青森一陽会小品展（弘前市）
ギャラリー　クレアシオン
10号程度の作品36点展示
●第44回教美展（青森市）
ねぶたの家－ワ・ラッセ－
出品者　逢坂清悦、中嶋強、笹森眞紀子、新戸部一弘、土岐千佳子
◇2月
●青森市文化奨励賞　逢坂清悦
○デッサン会、クロッキーの会、写生会などには積極的に参加している。
（対馬久世喜　記）

秋田一陽会
AKITA

■支部活動
●二人展　５月　秋田県生涯学習センター
菅野　操、高橋章子
●グループ燿展（石川恭子主宰）　５月
秋田アトリオン
石川恭子、平元美智子、前野恒子
●港洋画人展　５月　秋田北部サービスセンター
石川恭子
●晃展　６月　秋田アトリオン
榎　江里子、菅野操、眞崎桂子
●秋田県展　６月　秋田アトリオン
入選　大西暢子、平元美智子、前野恒子
●二人展　７月　秋田銀行御野場支店
菅野　操、高橋章子
●秋田テルサ子供絵画教室（眞崎桂子主宰）　８月
秋田県生涯学習センター
眞崎桂子
●ＮＰＯ夏休みは秋田のジオパークで遊ぼう展
８月　拠点センター　アルヴェ１Ｆ
高橋章子
●国民文化祭　県民参加事業　秋田国際美術家協会日韓交流展　９月　秋田県立美術館
石川恭子、高橋章子
●第60回一陽展（本展）　10月　国立新美術館
会友推挙　熊谷和子（後､退会）
奨励賞　眞崎桂子
入選　大西暢子、前野恒子、平元美智子
●秋田県芸術祭　秋田の美術2014　10月
秋田県立美術館
榎　江里子
●国民文化祭あきた2014美術展　10月
秋田県立美術館
奨励賞　高橋章子
入選　平元美智子、前野恒子、熊谷和子、眞崎桂子
●セリオンカルチャー展
（グループＪｕＬｙ石川恭子主宰）　11月
ポートタワーセリオンギャラリー
石川恭子、大西暢子
●第58回秋田美術作家協会展　11月
秋田県立美術館
笈川美芸堂賞　眞崎桂子
榎　江里子、菅野操、高橋章子、熊谷和子
●秀作美術展　３月　秋田県立美術館
菅野　操、高橋章子
（榎　江里子　記）

福岡グループ
FUKUOKA

●絵画クラブ　新年会　２月13日
●第１回「美の視点」大作展　４月10日～４月13日
東京芸術劇場
前田　睦
●第60回一陽展　10月１日～10月13日
国立新美術館
奨励賞　山崎千代香
会友　生嶋香津子、則松順子
会員　前田　睦
●文化祭　11月１日～11月２日　市民センター
絵画クラブ出展
●第７回碧の風・絵画作品展
11月18日～12月７日　ギャラリーみどりの館
前田　睦
（前田　睦　記）

山梨グループ
YAMANASHI

●峡北美術協会展　５月　山梨県立美術館
市村四方子
●山梨美術協会展　６月
三井正人
●やまなし県民文化祭　10月　山梨県立美術館
三井正人、吉田光雄

●やまなしの作家たち2014　11月
山梨県立図書館
三井正人、吉田光雄

●山梨美術協会会員展　2月　山梨県立美術館
三井正人

（吉田光雄　記）

岡山グループ
OKAYAMA

●第27回泉谷淑夫個展
8月27日～9月2日　横浜高島屋美術画廊

●第65回岡山県美術展
9月3日～9月7日　岡山県立美術館
泉谷淑夫（審査員出品）前嶋英樹（招待出品）
伊丹　脩（委嘱出品）　妹尾祐介（一般出品）
孫　　鵬（一般出品）　後藤　杏（一般出品）
横山瑞歩（一般出品）

（泉谷淑夫　記）

（カット　絵画部運営委員　田所満雄氏）

コラム『陽溜り』

一陽 編集子

“祝・会報50号”

今から、ちょうど35年前、1980年8月に一陽会会報が創刊されました。

編集スタッフは、今は故人となられた北山泰斗、山田治、その後会を離れられた荻原宗晃、鈴木雅弘の四先輩が担当し、大いに健筆を振るわれました。

翌1981年からは、年2回の発行となり、第3号からは現会員の石川三知代先生が加わり、内容が一段と充実していきます。当時、エッセイの名手としても知られた、鈴木信太郎、植木力両先生の洒脱な小文などは、いわば珠玉の随筆と言えるかも知れません。

また、創刊号には、現企画運営委員の佐野儀雄先生が、発刊に際して期待と賛辞と提言を寄稿されておられるのも、限りなく懐かしい思い出です。

その後、様々に紆余曲折がありましたが、現在は年1回の発行で、表紙と見開き頁がカラー印刷となりページ数も創刊時の16ページから36ページに増えました。

今号は奇しくも、創立60周年記念展の特集と会報通算50号とが重なり、なにはともあれ、おめでたい気分です。一陽会会報は単なる、内向けの媒体ではなく、会の内外の垣根を越えて広く親しまれ、読まれています。

会のPRに、メンバー同志の連帯感のＵＰに、皆様のご投稿、情報のご提供をお待ちしています。

絵画と彫刻が互いに刺戟し合う…、一陽展会場
撮影・宮坂和子会員

★次回原稿締め切り★
2016年1月末日

〒262-0013　千葉市花見川区犢橋（こてはし）町62−41
Tel&Fax 043（286）5236山田　久子まで

彫刻部研修会報告

彫刻部運営委員　中村　義孝　彫刻部会員　土井　敬真・安田　操

2014年12月6日㈯17：00～18：00
六本木にて

テーマ
野外展から―横浜の森から
ガンジスのほとりまで―

講師　彫刻部会友　衛守和佳子

講師　衛守和佳子氏

1999年から始まった一陽会彫刻部の研修会も今年で16回目を迎えました。研修会は毎年12月の第２土曜日に設定され、研修会の後に引き続き忘年会を開催するのが彫刻部の恒例行事としてすっかり定着してきたように思います。研修会の講師は彫刻部のメンバーであったり、外部から講師を招いて国立新美術館の研修室を会場に行われることもあったりと、毎年工夫を重ねながら運営されてきました。研修会は彫刻部としての研修の充実化と活性化、さらには社会貢献も目指して開催され、委員・会員・会友はもちろん、その年の一陽会の一般出品者にも参加を呼び掛け、外部講師を招いての国立新美術館研修室での研修会では広く一般の参加者にも参加していただいています。研修会後の忘年会でも引き続き研修会での話題で盛り上がったり、一般出品者と委員・会員・会友が自由に意見交換できることで、非常に有意義な懇親の場としての機能を果たしていると言えます。

今年度の講師は外部講師ではなく、彫刻部会友の衛守和佳子氏を講師に、野外展での活動を中心に制作へ思いを語っていただきました。衛守氏は一陽展では室内展示が多く、野外展と聞くと意外に思う方もいるかもしれませんが、これまで国内、国外を問わず、様々な野外展に時には企画運営にも携わりながら参加されてきました。学生時代には具象の木彫作品を制作されていたそうで、一陽展では植物の種や卵をイメージさせる作品や、人体と植物が融合したような作品を見慣れていたため、その作家としての変遷の意外さに新鮮な驚きを感じた参加者も多かったのではないでしょうか。東日本大震災後からはキュレーターなどの企画する側ではなく、作家としての活動により重点をおかれたこと、作品に込められたメッセージやインドでの野外展に参加された時の現地ならではのエピソードなど、スライドを映しながら大変興味深いお話を聞くことが出来ました。会友以上の参加者は、衛守氏の社会人として働きながら制作をし、作品を発表されてきたその時々のエピソード、思いに自分自身を重ねて深く共感したことと思います。また、卒業後どのように制作を続けていくのか、将来のビジョンをうまく思い描けなかったり不安に感じているかもしれない一般出品の参加者の人達に、衛守氏のその時々の正直な気持ちが込められたエピソードが少しでも励みになってくれればと思いました。

一陽会彫刻部の活性化とより質の高い作品制作のためにも、今後とも内容を工夫しながら充実した研修会を開催できればと思います。

大阪巡回展

一陽会関西支部
山下濶志

四天王寺を据える寺社・文教地区。通天閣をシンボルとする大衆歓楽地区。高層日本一の商業地区。この異質が同居する中心部に大阪市立美術館があります。一陽展終了から８日後。支部作品80点、招待作品50点をもって大阪巡回展が開催されました。

60回を迎えた同展。しっかりとこの地に根を下し、親しまれています。日々盛衰に身を置き、権威よりも実用価値を重んじる大阪人。自由闊達、多様な作風を展開する一陽展。両者の間には、相通じる何かがあるのでしょう。

全室機能する東京、手創り感の大阪。空気感の違いはあるものの、記念展に相応しい会場でした。その中に出品を危惧した４作品がありました。重度の体調不良や土石流被災等々厳しい障害を克服した作品達です。他に医師の制御を振り切って２年半の150号。残念ながら、今回も見当たりませんでした。

見るともなく、垣間見た仲間達の生活の一部。彼等から作品の裏と表とを教わりました。「生きる」とは「芸術」とは…逆算年齢にある私には、少々重い記念展となりました。

大阪展初日の講評会と懇親会。支部行事の大きな柱になっています。本部来賓の細川、濱田両先生が加わります。話は作品講評から会運営まで及びます。概ね、時間切れとなります。それはそれで宜しいのではと思っております。その余韻は来期へと繋がることでしょう。

金沢巡回展

レポート：竹田明男

創立60周年記念一陽展金沢展は12月４日、金沢市の石川県立美術館で開幕しました。

絵画・彫刻・版画の計87点が、並び新たな表現法を模索する出品者の意欲作が、美術ファンの心を引き付けました。金沢での巡回展の開催は５年ぶりとなりました。

おりしも、この冬一番の寒気がおとずれ、日増しに気温が下がり、６日からは雪が降りました。その悪天候の中でも入場者数は、1,200名を超える数となり石川支部メンバーも皆、喜んでおります。

そして、その雪の中、６日には本部から細川運営委員・濱田運営委員・泉谷運営委員の３氏を招聘し、共催の北國新聞社を表敬訪問・展覧会での作品解説その後、懇親会を開きました。

今回の金沢展は、第７・８・９企画展示室を使用しました。第７室では、間仕切りを取り大空間を試み本展１室の雰囲気を出す様にと心掛けました。第８室では、本展７室のイメージで抽象を中心とした空間作りをしました。第９室では、60周年記念賞を中心とした受賞作品を飾りましたが、どの展示室にも注意したのは、委員・会員・会友・一般とへだたりなく、絵柄・色彩バランスのリズムを考慮し陳列する様にと心掛けました。

お越しいただいた運営委員の先生方からは、新しい一陽会の切り口をみせていただいたと感想がありました。これも、本展での陳列や編集の仕事が活きたものと思っております。

本展の基本作品を展示することにより、地元石川の絵画ファンに美術表現の新分野開拓を目指す一陽会の理念を伝えることができ、巡回展を開催する必要性を改めて感じました。

企画・発行／一陽会
編集責任／細川　尚（一陽会事務所）　原稿担当／山田久子
写真提供／棚倉英雄・宮坂和子・アートデザインセンター
制作・印刷／大和美術印刷株式会社　発行日／2015年4月10日

一陽会事務所
〒292-0402 千葉県君津市西原 502−1
Tel&Fax 0439−35−2849
http://www2.ucatv.ne.jp/～itiyokai.snow/